週刊 YEAR BOOK

1954 昭和29年

日録20世紀

12|2
平成9年12月2日発行
(毎週1回発行)第1巻第39号
¥560
講談社

「第五福竜丸」被曝とゴジラ誕生

日本最大の海難事故！「洞爺丸」転覆の悲劇

"実質上の軍隊"自衛隊、16万人体制で発足

「ローマの休日」公開でヘプバーン旋風！

▲ゴジラは、水爆実験の放射能の影響で太古の眠りからさめた怪獣。写真は、第1作「ゴジラ」より。大戸島の山の尾根から頭部を現す"初出現"シーン。 東宝提供

▲第3作「キングコング対ゴジラ」。監督・本多猪四郎、特技監督・円谷英二。出演・高島忠夫、浜美枝。昭和37年8月11日公開。前作から7年後のゴジラ復活。

◀第2作「ゴジラの逆襲」。監督・小田基義、特技監督・円谷英二。出演・小泉博、若山セツ子。昭和30年4月24日公開。第1作のヒットにより急遽製作。

▶第1作「ゴジラ」。監督・本多猪四郎。出演・志村喬、河内桃子、宝田明、平田昭彦。昭和29年11月3日公開。この作品でゴジラは観客の心をとらえた。

◎表紙　この年誕生した、日本映画史上初の本格的特撮映画の主人公、ゴジラ。体長50メートル。 東宝提供

黒澤明「七人の侍」も破る九六一万人動員「第五福竜丸」の被曝がヒントに "大スター"ゴジラ誕生！

▲昭和29年10月25日、東宝撮影所での「ゴジラ祭」で巫女姿の河内桃子（左）と宮司をつとめた平田昭彦（右）。 東宝提供

昭和二九年一一月、映画「ゴジラ」が封切られた。後、ドル箱シリーズとなる「ゴジラ」はアメリカなどにも輸出され、日本の特撮技術の高さを世界に認識させた。だが、一面ではこの年に起きたアメリカのビキニ水爆実験による、「第五福竜丸」被曝事件に触発された、核兵器への怒りがこめられた作品でもあった。

ビキニの水爆実験が「第五福竜丸」を襲う

昭和二九年三月一日未明、静岡県焼津港所属のマグロ延縄漁船「第五福竜丸」は、日本から南東に四〇〇〇キロ離れたビキニ環礁近くで、運命の朝を迎えていた。夜明け間近の午前六時四五分、突然白い閃光が空一面に走り、西の空に巨大な火の玉が浮かび上がった。まるで日の出のようにも見えた。二〇歳の冷凍士・大石又七さんは「天変地異が起きたに違いない」と、この光を呆然と眺めていた。閃光は、アメリカの水爆実験によるものだった。この日の水爆は、広島型原爆の一〇〇〇倍以上の威力があった。

黒澤明「七人の侍」も破る961万人動員
「第五福竜丸」の被曝がヒントに

"大スター"ゴジラ誕生!

その後、数時間、乗組員は雨あられと降り注ぐ死の灰にさらされた。半年後、乗組員の一人、久保山愛吉(四〇)さんが放射能症で死亡し、ほかの乗組員もその後ずっと、放射線障害に悩まされる。広島、長崎に次ぐ第三の被災であった。

「読売新聞」が「邦人漁夫、ビキニ原爆実験に遭遇、二三名が原子病」という世界的スクープを報じたのは、三月一六日。この日を境に日本中が一大パニックにおちいったのである。

「第五福竜丸」のマグロは、放射能に汚染されていた。さらに、近くの海域にいた漁船の魚からも次々と放射能が検出された。検出器の「ガイガーカウンター」は、即日、誰知らぬもののない言葉となった。「原爆マグロ」は、海洋に投棄され、あるいは陸上に埋められた。「第五福竜丸」以外に、「原爆マグロ」を持ちこんだ漁船は八五五隻、投棄されたマグロは五〇〇トンにのぼった。魚価は暴落し、鮮魚店から客足は遠のいた。

そして実験の数日後から、日本列島には「放射能の雨」が降り始めた。人々は目に見えぬ放射能の恐怖におびえながらも、なす術もなかった。

▲ゴジラ映画が成功したのは、特撮の指導にあたった円谷英二の力が大きい。 東宝提供

核兵器への警告を託された「ゴジラ」

「読売新聞」のスクープ記事を、別の思いで食い入るように読む男がいた。東宝映画「ゴジラ」のプロデューサーとなる田中友幸(四三)である。この頃、田中はインドネシアとの合作映画の企画が頓挫し、急遽、新たな企画を練る必要に迫られていた。田中の頭に浮かんだ企画はこうだった。

「核実験のため、眠りをさまされた恐竜が東京を襲い、巨体と放射能を含む火炎で街を破壊し尽くす。人類が作り出した水爆に人類が復讐される」というストーリーである。

東宝社長の小林一三(八一)は、企画を聞き、「一億円かかるんですか、普通の三本分ですね。よろしい、君の好きなようにやってください。『七人の侍』『宮本武蔵』『ゴジラ』の三本は東宝再建がなったと世間に宣言するものになるでしょう」と言ったという。東宝は「来なかったのは軍艦だけ」と言われた大争議(昭和二三年)の後遺症が癒えていなかったのである。監督に本多猪四郎(四二)、特撮には第一人者、円谷英二(五二)を起用し、「G作品」という秘匿名を持つSFX(特殊撮影効果)映画作りは、こうして開始された。

さっそく、恐竜のイメージやネーミング、特撮用のセットが準備されていった。まず恐竜はイグアノドンをベースに、ティラノサウルス、ステゴサウルスの特徴を加味した体長五〇メートルのぬいぐるみが作られた。名前も、ゴリラとクジラを合わせて「ゴジラ」と名づけられた。また、これと並行して、東京の市街の精巧なミニチュアが作られていった。ゴジラが襲撃する国会議事堂も、二三分の一で寸分違わぬリアルな姿に作られた。しかもこれらの作業はいずれも、厳重な情報管制のもとで進められていったのである。

会社の力の入れ方も並ではなかった。

▲昭和29年3月1日、アメリカのビキニ水爆実験に遭遇した「第五福竜丸」の全乗組員が放射能症と診断された。写真は焼津の病院で。この悲惨な出来事をヒントにゴジラが誕生した。 毎日新聞社

▲第1作「ゴジラ」より。怪獣ゴジラは口から放射能線を吐き、東京を焦土と化す。しかし最後には、オキシジェン・デストロイヤー(水中酸素破壊剤)により倒される。 東宝提供

試写会前に、撮影所内で完成祝いとヒット祈願の「ゴジラ祭」なるものが催され、主演の河内桃子(二二)らによって、祝詞が捧げられたほどだった。新聞には「ゴジラ予告編上映」という広告が載った。「ゴジラ祭」といい予告編の告知といい、異例ずくめだったのである。

ゴジラの封切は昭和二九年一一月三日のことだった。当時、郵政省職員だった作家の笹沢左保(二四)は「入場券を買うのに最も待たされた記録に、二時間というものがある。券を買う人々は延々長蛇の列。とにかくゴジラの人気は凄かった」(「東宝映画」四〇年九月号)と語っている。

作家の三島由紀夫(二九)は「原爆の恐怖がうまく出ている。臨場感もあるし原爆の象徴としての怪物も成功である。素晴らしい着想だし、面白い映画である」と製作スタッフにもらしたという。

後に本多は「原爆、水爆の恐怖は科学万能という考え方への反省にもつながりました。水爆実験で何が起こるか分からない。そんな考え方で(中略)原案を書いてもらいました」(「朝日新聞」平成四年五月一二日)と言う。

ゴジラは観客動員数九六一万人という大記録を達成し、同じ年のゴールデン・ウィークに公開された黒澤明監督作品「七人の侍」の当分破られないと言われた記録を軽く上回るのである。そして、翌年の「ゴジラの逆襲」など、続編が昭和五〇年までコンスタントに作られ、東宝のドル箱となった。その後、中断を経て、五九年に復活、平成七年の「ゴジラVSデストロイア」まで、四一年間、二二作が作られたのである。

一瞬で壊されるセットの製作に1ヵ月

「大東宝が全機能を挙げた特殊撮影陣の凱歌!アメリカ映画を凌ぐ驚嘆すべきスペクタクル巨編!」

当時作られた「ゴジラ」の宣伝用コピーである。この作品にかけた円谷英二率いる東宝特撮陣の意気ごみのほどがうかがえる。

特撮のための予算は、約2200万円と記録されている。当時のサラリーマンの月給の平均が約1万円だった時代にこうした膨大な予算をかけ、人知れぬ苦労が重ねられた。

製作したミニチュアは、建物500棟、戦車10台、大砲10門、飛行機数十機、テレビ塔、高圧送電塔10基、船舶20隻など。

一瞬で壊される銀座の街並みのミニチュアセットの製作に1ヵ月以上がかけられた。

名場面のひとつに、ゴジラが吐き出す火炎で送電塔が溶け落ちるシーンがある。この送電塔は蠟でできていた。それも一瞬のうちに溶けなければならないので、非常に細かい蠟細工。そのためすべての準備が整ってから、ぶっつけ本番で組み立てられた。もたもたしていては、撮影用のライトの熱で溶けてしまうのだ。かといって溶けにくい太い蠟では、リアルさが出ない。スタッフが最も頭を悩ませたひとつだった。毎日の撮影後、汗まみれで異臭を放つぬいぐるみ内部を、ランプで乾かし、表皮を修理するのも裏方の仕事だったのである。

東宝提供

▲ゴジラが送電線の鉄塔を破壊するシーンは、名場面のひとつだが、スタッフの苦労は大変だった。

台風下、夜の海に消えた犠牲者一一五五名
日本最大の海難事故！
「洞爺丸」転覆の悲劇

昭和二九年九月二六日夕刻、台風一五号の接近にともなう強風の中、函館港を出港した「洞爺丸」（近藤平市船長、四三三七トン）はまもなく航行不能になり、四時間後の午後一〇時四五分、七重浜沖八〇〇メートル地点で座礁・転覆。一瞬にして一一五五名の犠牲者（生存者一五九名）を出す日本史上最大の海難事故となった。

七重浜沖八〇〇メートル、巨体が座礁、転覆

「私はあの時、ブリッジでレーダーを見ながら船の位置を確認し、近藤船長は必死で船のバランスをとっていました。船はまるで木の葉のように揺れ、台風が一刻も早く通りすぎることだけを願い、後は運命に身をまかせました」

二等航海士として「洞爺丸」に乗りこみ、一命をとりとめた後も青函連絡船の船長として乗務した山田友二氏（現・七二歳）は当時を振り返り、こう語る。

その日、函館海洋気象台は午後四時、北海道南端の「渡島、檜山地方では午後五時に最も風が強くなる」との台風情報を流していた。そして午後五時すぎ、函館港の雨と風が弱まり、それはまるで「台風の目」の通過のように思えた。

満を持していた「洞爺丸」が汽笛を鳴らし函館港を離れたのは午後六時三九分、定時の出港時間、二時三〇分から四時間余り後のことである。

出港後、函館港の防波堤近くで南南西四〇メートルの強風を受け、航行不能と判断した「洞爺丸」は、午後七時一分頃、難を避けるために錨を荒海に降ろし仮停泊する。台風の目とうつったものは、台風の北上にともないそれに先行して発生した温暖前線が引き起こしたものであった。

台風は依然として荒れ狂った。船は烈風にあおられながら、横からの風を避けるため必死に船首を風浪に向かって立て続けた。しかし、船尾に大きな開口を持つ車両甲板が災いする。それは五層になっている船の三層にあったが、船が縦に大きく揺れ船尾が下がると、海水は車両甲板に掬いとられる。この動きを繰り返すたびに、水は下層にある三等雑居室にまるで川のように流れこみ、さらに最低部にある機関室に浸水、排水ポンプの電動機が次々にショートし停止した。

午後八時三〇分には瞬間最大風速は五七メートルにも達していた。錨をもぎとられた「洞爺丸」の横揺れも激しさを増し、午後一〇時五分、国鉄函館海岸局（JRG）に「両エンジン不良のため漂流中」との無電を発した。

船室では、救命胴衣をつけた乗客が船の揺れとともにうめき声をあげ、ゴロゴロと転がっていた。デッキにいた人々は、救命筏とともに荒海に放り出された。しかし、激浪はそれをも呑みこむ。筏に必死にすがりつく人、また、ブイなどにつかまった人々が荒海に漂った。

共同通信社

▲「洞爺丸」全景。この日、乗客・乗員など1314人、車両12両を積載していた。

▲事故から一夜明けた函館・七重浜海岸。全国各地から乗客の身寄りの人たちが駆けつけ、安否を求めて立ち尽くす。写真右手沖合に転覆した「洞爺丸」の船腹が見える。 毎日新聞社

▲「洞爺丸」の転覆は、犠牲者1155名を出すわが国最大の海難事故となった。函館の慰霊堂には肉親の遺体を求める遺族の姿が見られた。 読売新聞社

午後一〇時四五分、運命の瞬間がやって来た。無残にも「洞爺丸」の巨体は七重浜からおよそ八〇〇メートル沖合で座礁・横転し、その船腹を見せたのである。

ただちに四隻の救助船が現場に向かったが、高波と強風でやむなく引き返し、救出作戦が始まったのは翌二七日の早朝であった。巡視船が波間に漂う生存者を救出したが、海上には遺体が点々と浮かび、砂浜にも多くの死体が漂着・散乱し、事故の悲惨さをものがたっていた。

職務上の「過失」と海難審判庁が裁定

「洞爺丸」は中日本重工神戸造船所で昭和二二年一一月二日に完工、青函連絡船として就航した。全長一一八メートル、乗組員一四三名、乗客の定員は九二二名で、わずか一ヵ月前、北海道に戦後初めて巡幸した昭和天皇・皇后の「御召艦」としてその役割をはたし終えたばかりである。

「洞爺丸」が沈没したその日、函館湾内ではほかに「十勝丸」など四隻の船も相次いで遭難、合わせて二七五人が死亡するなど、台風一五号は猛威をふるった。

過失か不可抗力か、その原因をめぐり昭和三〇年二月一五日、函館地方海難審判庁で第一回目の海難審判が開始された。

▶船体捜索で発見された貴重なフィルム。不安な面持ちで救命胴衣をつける乗客たちの姿が撮影されていた。 毎日新聞社

国鉄側は「異常台風による不可抗力」を、海難審判庁側は「安全確保に関する過失」を主張したが、同年九月二二日第一審の裁決が言い渡された。

裁決は「本件遭難は、洞爺丸船長の運航に関する職務上の過失によって発生したものであるが、本船の船体構造及び青函連絡船の運航管理が適当でなかったことも一因である」というものであった。

国鉄側は、これを不服として上訴したが、三六年四月、最高裁の上告棄却で国鉄の敗訴が確定する。

「洞爺丸」の悲劇は多くの教訓を導いた。異常時においては出航の判断を船長一人にまかせず警戒対策本部が指令を出すこと、船尾の開口部を閉鎖可能にし、エンジンは流出や投炭の危険を防止するため石炭燃料のタービンから油燃料のディーゼルへ、客室も上層へ移動された。

そして青函連絡船は、青函トンネルの開通にともないその姿を消す昭和六三年三月一三日まで、北海道と本州を結ぶ海の大動脈として就航し続けたのである。

女たちの肖像

初の「美容体操」番組で人気！皇后の指南役にも選ばれた竹腰美代子の〝健康を蓄える〟

稲葉真弓

この年四月一二日、NHKラジオで耳慣れない番組が始まった。わが国初の「美容体操」がそれである。指導者は竹腰美代子（二三）、東京女高師（現・お茶の水女子大）を卒業し、東京教育大学付属高校の先生をしていた彼女に白羽の矢が立ったのは、闊達でユーモアのセンスがあったこと。加えて発想がユニークだった。ともすれば運動不足になりがちな主婦たちに日常の中で少しずつ「健康を蓄える体操」をセールス、名調子の番組はたちまち人気を呼び、幼稚園児から老人までファンの層を広げた。

彼女が多くの人々を「美容体操」にひきつけたのは、専門的で退屈として敬遠されていた体操を、日常の健康に結びつけて説いたこと、飽きさせないためにマンボやチャールストンなどの新しい音楽を取り入れたこと、ちゃぶ台や子どもを使ったどこででもできる動きを取り入れたことなど、ふんだんに創意工夫がなされていた点にあった。テレビを見た皇后（現・皇太后）が、「力をつけるレッスンに」と彼女を指南役に選んだのも「蓄える健康」に共感をおぼえたからだと言われる。

竹腰美代子は昭和五年、神奈川県逗子の裕福な商家に生まれた。幼時からジンマシン、喘息に悩まされたため、健康な体を作りたいと、横浜第一高女を卒業後、東京女高師体育科に入学、一方で六年間にわたってデンマーク体操の教室にかよい続け体質改善に励んだ。

「美容体操」で人気者になった昭和三七年には日本初の〝体操リサイタル〟を開いたほか、明治学院大学講師、朝日文化センターの講師など体操の普及に尽力。四一年、人気絶頂だったクレージー・キャッツのメンバー、安田伸と結婚した。四六年、NHKの番組を退いた後は、〝健全な身体と精神は幼少時の基本が大切〟と、茨城県谷田部町（現・つくば市）に開設された「アカデミア幼稚園」の初代園長に就任。音楽と体操を重視した教育を実践する一方、健康ブームに乗って、全国各地で講演した。

昭和五七年出版された自伝『いつもお陽さま家族』はテレビドラマ化され話題になったが、何よりも夫の安田伸（平成八年一一月五日死去）が肝臓癌に冒された時、体育生理学の観点からいち早くそれを見抜き、早期治療に専念させた話は有名である。

▶「からだ全体の健康美」がモットーだった。

勝者・敗者

「ペン・ホルダーは攻撃あるのみ」荻村伊智朗、世界選手権初優勝！

阿部珠樹

昭和二七年のヘルシンキ・オリンピックから本格的に国際スポーツの舞台に復帰した日本だが、世界は日本人選手を諸手をあげて歓迎したわけではない。オリンピックの二年後、この年の四月にロンドンで開かれた第二一回世界卓球選手権でも、日本選手に対するイギリスのマスコミの風あたりはかなりのものだった。

日本選手が、大会前の予想をくつがえす活躍を見せると、「彼らの活躍は興奮剤のおかげ」などという記事が大衆紙に出て、日本人選手やコーチ陣を憤慨させた。

しかし、選手たちは、戦前の選手のように妙に卑屈になったり、逆に「国のために」などと目をつり上げたりすることなく、ずぶとく、体格に勝るヨーロッパの選手相手に、のびのびと挑んでいった。

男女の団体戦でまず優勝、男女シングルスでも期待の選手が次々と世界の強豪を打ち破っていく。その先頭に立っていたのが日大生の荻村伊智朗だった。この時荻村は二一歳。抜群のフットワークと、ペン・ホルダーから繰り出すスピードあふれる攻撃で団体戦優勝の立て役者になり、シングルスも順調に勝ち上がり、決勝に進む。

▲大会は4月5日〜14日、ロンドンのウェンブリー・スタジアムで開催。写真は荻村選手（左）と長谷川監督。

中でもシングルス五回戦で、世界ランキング一位のハンガリーのシドをわずか一七分で片づけた試合は、ロンドンの観客を驚嘆させた。

「ペン・ホルダーは、守りに重点をおいたのでは、体力のある相手に最後は力負けする。攻撃あるのみ」

守備を重視する欧米のシェイク・ハンドに対して練りあげた作戦が、本番で功を奏したのである。

荻村は決勝でもスウェーデンのフリスベルグをセットカウント三対一で破り、みごと優勝を飾る。

以後、荻村は世界選手権に七回出場、団体戦五連覇の原動力となり、この大会の二タイトルと合わせ、合計一二の世界タイトルを獲得して、「卓球ニッポン」の栄光を一身に担う選手に成長していった。

ニュース・ファイル 1954

フォト＋日録で再現する365日

昭和二九年は二重橋事件で開けた。造船疑獄、「第五福竜丸」の悲劇と放射能雨の恐怖、「洞爺丸」遭難、不況……。騒然たる世相が続き、年末には吉田内閣が崩壊した。そんな中、「七人の侍」や「ゴジラ」が活躍し、「ダンボ」が夢を運び、ヘプバーンが華麗に登場した。

◀近江絹糸争議（6月2日）ひそかに作られた組合が「女工哀史」と言われた労働条件改善を求めて決起、4日から無期限ストに入った。信仰の強制、私信・私物検査など、人権を無視した労働環境が世間を驚かせた。

毎日新聞社

毎日新聞社

◀祝賀一転、二重橋で大惨事（1月2日）皇居一般参賀に史上最高の38万人余もの人々が詰めかけ、橋上が大混雑、折り重なって倒れた人々のうち16人が死亡、65人が重軽傷を負った。群衆の整理など警備の方法が問われた事件だった。

▼吉葉山、横綱決める全勝優勝（1月24日）東京・蔵前国技館で開かれた大相撲初場所千秋楽で、横綱鏡里を豪快に寄り切った。昭和13年初土俵以来16年目、戦時の古傷に泣き、33歳でやっとかなえられた横綱昇進だった。

▲「三人の会」第1回演奏会（1月26日）東京の日比谷公会堂で、若手作曲家の新作を東京交響楽団が演奏した。曲目は、芥川也寸志（左）が「交響的歎歌」、黛敏郎（中）が「饗宴」、團伊玖磨（右）が「シンフォニア・ブルレスカ」だった。

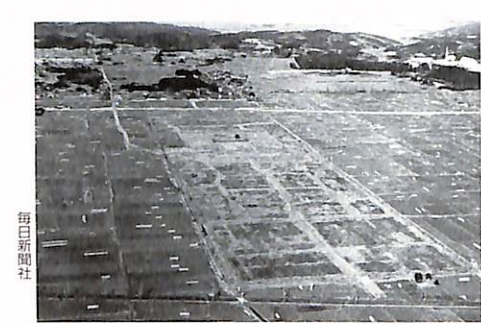
▼世界初の原子力潜水艦「ノーチラス号」（1月21日）アメリカのコネチカット州で進水、初めて原子力の動力への応用が実現した。潜水したままで世界一周できる能力を持っていた。

▼戦後初の地下鉄、池袋―御茶ノ水間開業（1月20日）池袋で西武線・東上線と接続する丸ノ内線の新路線で、朝5時10分発車。途中に新大塚・茗荷谷・後楽園・本郷三丁目の4駅が新設された。

▼平城京発掘（1月12日）米軍キャンプへの道路拡幅工事にともなって、大極殿の地下遺構が発見されたことから、文化財保護委員会が本格調査を開始。古都「奈良の都」の謎解明に動き出した。

共同通信社

毎日新聞社

CORBIS-BETTMANN/PPS

昭和29年1月

1（金）●一円未満の通貨の流通が廃止される。

2（土）●二重橋で一般参賀の混雑のため一六人が死亡。
●ローマ法王、テレビの悪影響を警告。

3（日）●東京はポカポカ陽気、浅草に三〇万人の人出。

4（月）●NHKラジオ「紅孔雀」放送開始。

5（火）●「毎日新聞」、加藤芳郎の漫画「まっぴら君」連載開始。

6（水）●画家・山下清が二年余り消息不明、と新聞に。

7（木）●米大統領、沖縄の米軍基地無期限保持を表明。

8（金）●都教育庁調査で、中学生の七〇㌫が進学希望。

9（土）●都、街頭宣伝など対象に騒音防止条例を公布。

10（日）●多目的ダム第一号の北上川支流「石淵ダム」で発電試験（13日、正式運転開始）。

11（月）●イタリアの写真家が、生きているシーラカンスを撮影、と新聞に。

12（火）●文化財保護委、平城京跡の本格発掘調査開始。
●ダレス米国務長官、大量報復戦略を発表。

13（水）●丹下健三ら、建築家の著作権を否認する国会図書館設計公募への不参加を呼びかける。

14（木）●マリリン・モンロー、ジョー・ディマジオと結婚（10月4日、離婚発表）。

15（金）●造船疑獄で、山下汽船の横田愛三郎社長、逮捕。

16（土）●札幌で男子スピードスケート世界選手権大会開催（日本初のスポーツ世界選手権大会）。

17（日）●吉田首相、新年度の緊縮予算案に関し、国民に「耐乏生活」を求める演説。

18（月）●中教審、教育の中立性について文相に答申。

19（火）●韓国、竹島（韓国名・独島）に領土標識設置。

20（水）●東京の地下鉄丸ノ内線池袋―御茶ノ水間開通。

21（木）●世界初の原潜「ノーチラス号」が米で進水。

22（金）●劇団四季が初公演（「アルデール又は聖女」）。

23（土）●電気料金めぐり主婦連と東電が懇談会。「値上げすれば停電がなくなるか」と、主婦側攻勢。

24（日）●本年度成人（昭和八年生まれ）は一六八万人、出生総数のうち四四万人を失う、と新聞に。

25（月）●闇米価格が急落、配給米の二割安も、と新聞に。

26（火）●米上院外交委、米韓相互安全保障条約を承認。

27（水）●保全経済会事件で、全国二四五ヵ所を捜索。

28（木）●能楽の梅若一門が観世流に復帰、大正九年以来の対立が解消。

29（金）●自治労結成。

30（土）●吹雪により北海道で漁船など一一七隻が被害。

31（日）●猛吹雪の札幌市で道に迷った小学生が、雪面下二㍍から一昼夜ぶりに救助される。

ARCHIVE・PHOTOS／アメリカン・フォト・ライブラリー

▲マリリン・モンロー来日(2月1日)ハリウッドの大スターを一目見ようと2000人が空港に殺到、元ヤンキースの強打者ディマジオと新婚旅行中のモンローを驚かせた。

Popperfoto／ユニフォトプレス

▲「赤狩り」論争(2月18日)米上院議員マッカーシー(写真)が陸軍将校を非米活動委員会査問会にかけたが、陸軍が出頭を拒否したため抗争に。すでに「赤狩り」への疑念は強く、12月、上院はついに同議員非難決議を可決した。

▶加茂幸子「テニスの女王」に(2月14日)マニラで行われたアジア・テニス選手権大会で単・複・混合に優勝。写真は金山参事官夫人と喜び合う加茂(左)。

▼日航の国際線定期第1便出発(2月2日)東京―サンフランシスコ間を結ぶ「シティ・オブ・トウキョウ」。午後9時半、関係者の見送りを受け羽田空港を離れた。

共同通信社

▼沖縄の「ジュリ馬行列」復活(2月23日)木製の馬の首を持って街中を練り歩く祭り。那覇市辻町の伝統行事だったが、戦争で中断、この年再開した。写真は波上宮前。

沖縄タイムス

毎日新聞社

▲ラストボロフ事件(2月1日)在日ソ連代表部が「書記官のラストボロフが米情報当局に抑留された」と抗議。これに対し外務省は8月、同氏はスパイ活動をしていたが米に亡命、と発表。

昭和29年2月

- 1(月)●在日ソ連代表部、書記官ラストボロフが米に抑留されたと発表(ラストボロフ事件)。
- 2(火)●日航、東京―サンフランシスコ線を開設。
- 3(水)●吉葉山、横綱に昇進、推挙式。
- 4(木)●NHKと東芝、テレビカメラ用撮像管を開発。英米に次ぎ三番目。
- 5(金)●日航、東京―那覇線を開設。
- 6(土)●東京地検、造船疑獄で運輸省を家宅捜索。
- 7(日)●益田市文化財審議会、絶滅寸前の石見犬の保護に着手、人工受精などを予定、と新聞に。
- 8(月)●東京で、売春禁止法制定期成全国婦人大会。
- 9(火)●米プロバスケットの二チームが、日本で試合を行うため来日。
- 10(水)●興亜火災海上、東京・上野両駅に、旅行中の保険契約ができる「自動保険販売機」を設置。
- 11(木)●立入禁止になっている九十九里浜の米軍演習場沖で、操業中の漁船に対し米軍が威嚇射撃。
- 12(金)●閣議、二万六〇〇〇人の地方公務員整理決定。
- 13(土)●茨城県教育庁が文部省通達により高校教員の思想調査と判明、左派社会党県連が厳重抗議。
- 14(日)●出力四万キロワットの富山県・神通川第一発電所二号機が稼動。
- 15(月)●第一回憲法擁護国民大会、開催。
- 16(火)●大達茂雄文相、教職員に対する文部省の思想調査通達は当然と言明。
- 17(水)●東京地検、保全経済会の伊藤斗福理事長を詐欺罪などで起訴。
- 18(木)●通産省、六社に砲弾・薬莢の生産を許可。
- 19(金)●日本初のプロレス国際試合。力道山・木村とシャープ兄弟が、タッグマッチ。
- 20(土)●巡視船「さど」、韓国警備艇に銃撃される。
- 21(日)●仏の電車が、パリ―リヨン間で時速二四三キロを記録。
- 22(月)●福島県土湯温泉で大火、旅館など七六戸焼失。
- 23(火)●衆議院、造船疑獄事件で有田八郎議員の逮捕請求を許諾。
- 24(水)●衆院決算委、造船疑獄に関し料亭での政財界人の談話を記録した「森脇メモ」非公開を決定。
- 25(木)●エジプトでナギブ大統領とナセル副大統領の権力闘争が表面化。
- 26(金)●西独下院、欧州軍参加認める憲法改正案可決。
- 27(土)●東京で第一回日ソ文化財交流展。民族楽器「バヤーン」を日本で初めて演奏。
- 28(日)●東京地検、造船疑獄で池田勇人から事情聴取。

▶「二重橋事件」のけい子ちゃん、視力回復(3月)1月2日の皇居一般参賀の際に踏みつけられ失明したが、東大医学部脳外科の清水健太郎教授の手術が成功。写真は3月13日、11回目の誕生日に記者団の前に姿を見せたけい子ちゃん。

読売新聞社

◀「造船疑獄」泥沼(3月5日)東京地検は飯野海運社長・俣野健輔に出頭を要請(中央)。この捜査で、計画造船や新造船舶建造審査にからんで金銭を受けとったとされる多数の政治家などの名が新たにあがり、政・官・財界をつなぐ構造汚職は、また広がりを見せた。

毎日新聞社

毎日新聞社

▲北海道のニシン、9年ぶりの豊漁(3月30日)戦後、漁場の北上によって漁獲が激減していたが、この日、余市の浜(写真)などに手づかみできるほどの大群が押し寄せた。しかし、その後も漸減、昭和52年、200カイリ時代に突入すると、ほとんどを輸入にたよらざるをえなくなった。

▶やっかいものになった一円札(3月)インフレでお金の価値が下落、1月1日からは1円未満の通貨が流通停止に。一円札もあまり使い道がなく、退蔵されがちで、社寺の賽銭が回収に一役かった。

毎日新聞社

毎日新聞社

▲「第五福竜丸」核汚染(3月1日)米のビキニ水爆実験で、操業中のマグロ漁船が死の灰をあび、乗組員が放射能症に。写真は帰国した同船の放射能検査。

▶「日本喜劇人協会」発足(3月11日)榎本健一、古川ロッパ、柳家金語楼が、ともに映画・舞台をやろうと呼びかけた。坊屋三郎、トニー谷らの顔も見える。

昭和29年3月

- 1(月)●「第五福竜丸」、米のビキニ水爆実験で被曝。●NHKの大阪・名古屋両テレビ局が開局。
- 2(火)●衆院行政監察特別委、保全経済会事件で、池田勇人・犬養健らの喚問を決定。
- 3(水)●文部省、「偏向教育」の事例二四件を国会に提出(5日以降、各県教組などの反証続出)。
- 4(木)●二日提出の原子炉建設予算に、関係官庁・学界などから反対意見続出、と新聞に。
- 5(金)●岸田国士、舞台稽古の指導中に倒れ、死去。
- 6(土)●塚田郵政相、NHK「ユーモア劇場」を非難。
- 7(日)●ニューヨークで日米抽象美術展、開催。
- 8(月)●日米相互防衛援助協定(MSA協定)、調印。
- 9(火)●長崎市の平和祈念像原型(北村西望作)が完成。
- 10(水)●島田市で幼女誘拐・殺害事件(青年を別件逮捕、後に死刑確定。平成一年、再審で無罪)。
- 11(木)●「日本喜劇人協会」発足。会長に榎本健一。
- 12(金)●ディズニー映画「ダンボ」封切。初の日本語吹き替え映画。
- 13(土)●厚生省、結核実態調査発表。患者数二九二万人。
- 14(日)●被曝した「第五福竜丸」が焼津港に帰港。
- 15(月)●通産省、乱立恐れ、航空工業に許可制導入。
- 16(火)●「読売新聞」、「第五福竜丸」被曝をスクープ。
- 17(水)●琉球米民政府、地代の一括支払いによる軍用地の永代借地権設定構想を発表。
- 18(木)●中国の国連加盟問題で英米が対立。
- 19(金)●米、核実験の立入禁止海域拡大を日本に通告。
- 20(土)●ソ連からの第二次引揚げ最終船として、「興安丸」が舞鶴に入港。
- 21(日)●東京税関、パンアメリカン機の乗員用ロッカーからスイス製時計一二〇〇個を押収。
- 22(月)●ボクシング東洋ミドル級選手権で辰巳八郎がフィリピンのアルデゲール破りタイトル獲得。
- 23(火)●民放連、「有害・低俗」番組基準を制定。
- 24(水)●三、四月に全国で六三の市が誕生、と新聞に。
- 25(木)●和歌山県富里村で山火事、二〇〇〇㌶焼く。
- 26(金)●衆院本会議、「教育二法」を可決。
- 27(土)●引揚援護庁が閉庁式(4月1日、引揚援護局に改組し厚生省に移管)。
- 28(日)●緒方竹虎副首相、自由・改進両党の解党による保守合同構想を発表。
- 29(月)●ネルー・インド首相、米ソに核実験中止を要請。
- 30(火)●光風会の展覧会で八歳の佐久間百合が入選。
- 31(水)●日本・カナダ通商協定調印。英連邦諸国と戦後初の通商協定。

毎日新聞社

毎日新聞社

▲**孤児救済のためジョセフィン・ベーカー来日(4月13日)**神奈川県大磯のエリザベス・サンダース・ホームで歌と踊りの慈善興行。養子にした孤児二人を連れ帰国した。写真左は映画俳優の早川雪洲。

共同通信社

▲**団塊の世代、小学校入学(4月5日)**昭和22年生まれ、ベビーブーム第1陣の子どもたち255万人が入学式。都内では実に前年の2倍近くの新1年生が誕生。教室・教員の不足で大混乱となった。

◀**飯田長姫高、初出場で優勝(4月7日)**春の高校野球で、身長159センチの「小さな大投手」光沢毅が大活躍。決勝戦でも小倉高を完封。飯田市民は凱旋するナインを歓呼で迎えた。

▶**犬養法相、指揮権発動 (4月21日)**造船疑獄事件で自由党幹事長・佐藤栄作逮捕許諾請求を、吉田首相の意向を受け、文書で不承認と検事総長に通達。「伝家の宝刀」を抜かされた法相は翌日、辞任した。

毎日新聞社

共同通信社

▶**第1回全日本自動車ショー開幕(4月20日)**東京・日比谷公園に229台展示、うち乗用車は14台だったが、期間中の入場者は55万人。モータリゼーションは確実に始まっていた。

◀**バキュームカー登場(4月29日)**東京都清掃本部が発注していた5台が完成。汲み取り口からホースを突っこみ、真空ポンプで吸い上げる方式。桶を使う方式より6倍も早いという。

自動車工業振興会提供

昭和29年4月

1(木)●衆議院、原子力国際管理決議案を決議。
2(金)●東京に「通り魔」、女性二人が刺されて重傷。
3(土)●磐梯山で大規模な地滑り、旅館三軒が埋没。
4(日)●福岡県臼佐村に、障害児を持つ大学教授が私財を投じた障害児施設「しいのみ学園」が開園。
5(月)●「君の名は」の九州ロケにバスで一四〇台の見物が押し寄せ大混乱、と新聞に。
6(火)●移民船「ぶらじる丸」が進水。
7(水)●二日に来日したカラヤンがN響を指揮。
8(木)●劇団民芸、「セールスマンの死」公演。
9(金)●バックハウス、東京でピアノ独奏会。
●米、初めて「第五福竜丸」事件に遺憾の意表明。
10(土)●大阪で第一回日本国際見本市開催(~23日)。
●「地獄門」、カンヌ映画祭グランプリ受賞。
11(日)●NHK「やん坊・にん坊・とん坊」放送開始。
12(月)●NHKラジオ、竹腰美代子の美容体操を放送開始(14日、テレビ放映も開始)。
13(火)●大蔵省、零細企業の短期運転資金のため国民金融公庫に特別小口貸付制度を新設と発表。
14(水)●東京地検、造船疑獄で佐藤栄作自民党幹事長に任意出頭を求め、取り調べ。
15(木)●電電公社の東京―名古屋―大阪間マイクロウエーブ完成。
16(金)●神奈川県工試、絹の不燃加工に成功と新聞に。
17(土)●小倉市のデパートが真知子香水・春樹ネクタイなど「君の名は」商品を売り好評と新聞に。
18(日)●ハイフェッツ、二三年ぶりに東京で演奏会。
19(月)●文京区の小学校で、二年生の少女が授業時間中に便所で殺される(鏡子ちゃん事件)。
20(火)●東京で第一回全日本自動車ショー開催。
21(水)●犬養健法相、造船疑獄で指揮権発動。
22(木)●国連経済社会理事会、日本の「アジア・極東経済委員会(エカフェ)」加盟を承認。
23(金)●日銀、預貯金利子課税廃止を政府に申し入れ。
24(土)●衆議院、吉田内閣不信任案を二〇票差で否決。
25(日)●私鉄総連、賃上げ要求し全国で二四時間スト。
26(月)●黒澤明監督「七人の侍」封切。
27(火)●O・ヘプバーン主演「ローマの休日」封切。
28(水)●文部省、中学校に道徳、小学校に地理・歴史を導入すると通達。
29(木)●ネルー・インド首相ら、平和共存・領土主権の尊重など「平和五原則」を提唱。
30(金)●日本海員組合、水爆実験に関連し豪州航路への就航拒否を船主会に申し入れ。

証言・あの日この日
室生犀星(64)

1月8日(金)〈銀座天賞堂で近視と乱視、老眼の三つををさめた眼鏡を注文した。六千円、かねてほしいと思ったものであるが、やっとあつらへることが出来たのである。不二屋でお茶をのみ、松坂屋で買物、イギリスの蝙蝠が鳥渡ほしいと思ったのが一万二千円だったので、やめた〉(『室生犀星全集』別巻2)

もりそば25円、大学出の初任給約1万円の時代である。続いて1月13日の日記。〈こんど来た女中、給金三千円できのふ腕時計を買って来たが、いくらネヂを捲いてもうごかないといふ、聞くとネヂを左に捲いてゐたのださうである。生まれてはじめて時計を買った信州の山の娘は、左捲きのネヂで時計をうごかさうとするのである。これは笑へない、八反歩を耕す百姓家の娘のゆめは時計の中でねむってゐる〉。

(坪内祐三)

キーストン

▲**ディエンビエンフー陥落(5月7日)**ベトナムのフランス軍最大の拠点が、この日ベトナム独立同盟軍の手に落ち、9年間におよぶ第1次インドシナ戦争が事実上終結した。写真は塹壕内のフランス軍兵士。

毎日新聞社

朝日新聞社

▲**「私は何も知らなかった」(4月7日)**造船疑獄の陰で情報収集に暗躍したと「森脇メモ」に書かれた赤坂の芸者・秀駒(21)が、身を寄せていた劇作家・菊田一夫宅で記者会見。噂に控え目に抗弁する「平凡な女」だった。

◀**テレビ観戦中に床が抜ける(5月24日)**東京・中野駅前の丸井百貨店2階売り場で、ボクシング世界フライ級防衛戦、白井対エスピノサを観ていた客のうち27人が1階に落ち、重軽傷を負った。

◀**第2回アジア競技大会の花(5月)**5月1日から9日間、18ヵ国が争ったマニラ大会で日本の南部敦子が活躍した。100メートル走12秒5で優勝、200、走り幅跳びも2位だった。

読売新聞社

毎日新聞社

◀**「美人測定器」出現(5月19日)**東京の映画館主が、「世界の美人」伊東絹子主演映画の宣伝に、シルエットを切り抜いた看板を用意。2日間で数十人が通り抜けに挑戦し、二人が成功した。

昭和29年5月

1(土)●長期欠席の小・中学生が三四万人と文部省。
2(日)●アジア五ヵ国、中国の国連加盟促進を決議。
3(月)●「イギリスが簡単で安あがりな水爆を開発」と英紙が報道。
4(火)●玩具問屋組合、恵まれない子へと玩具一〇万点を都へ寄贈。
5(水)●俳優座こども劇場、「森は生きている」を初演。
6(木)●デフレ進み、賃金遅配が全国化、と新聞に。
7(金)●ベトナムの仏軍拠点ディエンビエンフー陥落。
8(土)●東京で第一回東南アジア映画祭、開催。
9(日)●東京で原水爆禁止署名運動杉並協議会、結成。
10(月)●京都市で市教委と府教組が対立、市立旭丘中学で分裂授業の事態。
●学術会議、放射線影響特別委員会を設置。
11(火)●閣議、原子力利用審議会設置を決定。
12(水)●九日以降北日本を襲った暴風雨で、死者・行方不明者三六一人、船舶数十隻が消息不明に。
13(木)●岐阜県徳山村で大火。民家一一九戸中一一六戸と役場・小学校などが焼失。
14(金)●警備隊(後の海上自衛隊)への米駆逐艦四隻貸与が決まる。
15(土)●ビキニ海域放射能調査のため、水産庁調査船「俊鶻丸」、東京・芝浦を出航。
16(日)●この日の雨から放射能検出、以後各地で続出。
17(月)●米最高裁、公立学校での人種差別に違憲判決。
18(火)●インドネシア独立戦争に参加した元日本兵五人、強制送還され帰国。
19(水)●東京で給食関係者にマカロニ料理の講習会。
20(木)●土地区画整理法、公布。
21(金)●閣議、デフレ深刻化による失業者急増に、中央・地方連絡機関設置を決める。
22(土)●厚生省、放射能雨対策に「野菜はよく洗え」と指示。同時に各地の水道水の調査を開始。
23(日)●雨の第二一回日本ダービーに七万人の人出。
24(月)●女子テニスの加茂幸子、日本女子初のウィンブルドン参加が決まる。
25(火)●東京で開催のフリースタイル・レスリング世界選手権大会フェザー級で、笹原正三が優勝。
26(水)●東京の観世会館完工。
27(木)●米空母「ベニントン」が爆発、一〇〇人死亡。
28(金)●オランダ関係戦犯一五人が仮出所。
29(土)●教育二法と秘密保護法が成立。
30(日)●岡山県営の多目的ダム「旭川ダム」、完工。
31(月)●東京に「黒い雨」が降る。原因は不明。

▲乱闘国会（6月3日）政府・自由党が改正警察法成立を急ぐと、社会党など野党が猛反対、殴り合いに。堤衆院議長は議会史上初めて院内に警官隊を導入した。

共同通信社

▶子どもと遊ぶダニー・ケイ（6月30日）映画「虹を掴む男」などで有名な米喜劇俳優がユニセフ（国連児童基金）大使としてインド、ビルマなどをまわって27日来日。この日は東京・丸の内工業クラブで子どもたちに得意の踊りを披露した。

朝日新聞社

▼W・ホールデン来日（6月13日）前年「第17捕虜収容所」でアカデミー主演男優賞を受賞した人気俳優で、パラマウント社開発のビスタビジョンの売りこみが目的。左は羽田に出迎えた女優・淡路恵子。

共同通信社

▶名古屋にテレビ塔完成（6月19日）中区神楽町に高さ180メートルの塔を建設。設計は早大教授・内藤多仲で、この日完工式が行われた。NHKと中部日本放送が共同利用する。

中日新聞社

◀「ユーモア劇場」打ち切り（6月13日）三木鶏郎の風刺コントなどで人気があったが、政府の圧力にNHKが抗しきれず、この日最終放送となった。写真は放送できなかった台本を見上げる三木。

毎日新聞社

▶ローマの世界体操選手権で田中敬子が優勝（6月30日）ソ連勢が圧倒的な強さを見せたが、日本も徒手で竹本正男、平均台で田中（写真）が優勝、団体男子も2位に食いこんだ。

毎日新聞社

昭和29年6月

- 1（火）●西独の自由ベルリン放送が開局。
- 2（水）●参院、自衛隊の海外出動禁止決議を反対一人で可決。
- 3（木）●衆院、改正警察法めぐり混乱。議長要請で警官隊が初めて院内に入る。
- 4（金）●近江絹糸労組、私信検閲など前近代的労働条件の廃止を求め無期限スト。
- 5（土）●与党、国会混乱で社党議員四三人の懲罰動議提出、社党は自由党の暴行議員四八人を公表。
- 6（日）●英・仏・伊などヨーロッパ八ヵ国がテレビ交流「ユーロビジョン」への参加を決める。
- 7（月）●参院、改正警察法を強行可決。
- 8（火）●改正警察法、公布。国家警察・自治警察を都道府県警察に一本化し、中央集権体制を強化。
- 9（水）●防衛二法（防衛庁設置法・自衛隊法）、公布。
- 10（木）●大阪など五大市の公安委員協議会、警察法は無効との態度決定。
- 11（金）●愛媛県松山西署、千円札偽造団六人を逮捕。
- 12（土）●放射能調査船「俊鶻丸」、ビキニ環礁で一〇〇〇カウントの放射能を観測。
- 13（日）●NHK「ユーモア劇場」、最終放送。
- 14（月）●元保安隊員ら、カービン銃で保安庁職員を脅し、小切手など二〇〇〇万円を強奪。
- 15（火）●衆院全員協議会、国会乱闘で国民に陳謝。
- 16（水）●ベトナム共和国首相にゴ・ジン・ジエム就任。
- 17（木）●デフレ傾向でラジオ生産が減少、と新聞に。
- 18（金）●仏議会、マンデス・フランスを首相に選出。
- 19（土）●名古屋にテレビ塔が完成。
- 20（日）●全国で二億円盗んだ「万引き団」一一人逮捕。
- 21（月）●米対癌協会、五〇歳から七〇歳までの喫煙者の死亡率は非喫煙者より七五%高いと発表。
- 22（火）●米の大型爆撃機B47が、空中給油を利用し太平洋無着陸横断、東京・横田基地へ飛来。
- 23（水）●東京法務局、近江絹糸で人権侵害と報告。
- 24（木）●保安隊員など六三〇〇人が自衛隊移行にともなう宣誓を拒否、と「朝日新聞」が報道。
- 25（金）●仏教団体が団結、全日本仏教会を結成。
- 26（土）●労働省、不況対策に一時帰休制採用を検討。
- 27（日）●ローマで第一三回世界体操選手権開催（～7月1日）。初参加の日本、男子団体で二位。
- 28（月）●周恩来・中国首相とネルー・インド首相、平和五原則確認の共同声明を発表。
- 29（火）●東京で「ヘプバーン・スタイル審査会」。
- 30（水）●モスクワ放送、ソ連が原子力発電開始と放送。

「現場」を歩く 新宿

「灯」組合員がオープン、今も続いている"歌声喫茶"

山本徹美

▲新宿3丁目の「ともしび」の店内。週末ともなると、かなり混みあう。　但馬一憲

昭和二九年一一月、東京・西武新宿駅前に「灯」が開店した。もともと同店はロシア料理を五〇円均一で提供する大衆食堂だったが、ロシア民謡のレコードをかけるたびに客が曲に合わせて唱和するのに着目。むしろ歌う場所としての店舗に軌道修正する。アコーディオン奏者を雇い、客のために一日何回かのステージを設けた。「歌声喫茶」の誕生である。

客層は若い労働者や、シベリア抑留体験者などが大半を占めた。彼らはロシア民謡の「灯」「トロイカ」「カチューシャ」などを愛唱した。やがて、それに「うたごえ運動」が共鳴する。同運動は関鑑子と中央合唱団（日本共産党系）が昭和二三年に開始した。労組員や職場のサークル仲間が昼休みを利用、コーラスを楽しむというもの。二七年から「日本のうたごえ祭典」と称して全国大会を開催。三〇年、関がスターリン平和賞を受賞するや「うたごえ運動」は最盛期に。その練習場に歌声喫茶はうってつけであった。

合唱ブームに乗って、歌声喫茶は全国に普及、約二〇〇店が新設。都内では二〇店前後が開業していた。昭和三四年、「灯」は四〇〇人収容可能な地上三階建てビルに改築、「一号店」とし、支店を渋谷、新宿コマ劇場裏に開店した。が、「七〇年安保」を境に歌声喫茶は下火となり、ついに五二年一〇月一〇日、西武新宿駅前にあった「灯」一号店は閉店する。

独特の連帯感を味わう

「灯」はしかし完全に消失したわけではなかった。現在、新宿三丁目にあるビル六階で「うたごえの店ともしび」の名で営業している。同店で司会などをつとめる寺谷宏氏（三九）が経過を解説する。

「昭和三七年、『新宿コマ劇場裏灯』店で、経営者がウエートレスを馘首したことから従業員が組合『全国一般灯分会』を結成しました。それに対し、経営者は店の閉鎖と全員解雇を通達。争議は四〇年に決着しましたが、その組合員が中心となって株式会社ともしびを設立、五九年からここで歌声喫茶を開いています」

組合労働者のために、憩いの場を提供していた店主が、いざわが店に組合ができるとそれを嫌い、閉店にいたるとはなんとも皮肉な運命のように思える。

「ともしび」は年中無休、午後五時半から午後一一時まで営業。七〇人収容可能で、フロア前方にステージが設けてありグランドピアノの伴奏と、時にアコーディオン、コントラバスなども加わる。私が訪ねた時は夏休みとあって、小学生の姿が見受けられ、その親とそのまた親の三世代で来場している家族もあった。寺谷氏によると現在リクエストナンバーワンは喜納昌吉の「花」だとか。

合唱といえば私など同窓会で校歌をがなる程度だが、ここで歌ってみて不思議と似たような感覚を味わった。たぶん、一種の連帯感が生じるからだろう。都会の孤独に嫌気がさしたら、合唱してみるのも手だと思った。

寺谷宏提供

▲新宿コマ劇場裏にあった「灯」の前で、従業員と常連の客のスナップ。昭和30年撮影。

ベストセラー
伊藤整のくだけたエッセイ『女性に関する十二章』

この年、ベストセラーのトップになった伊藤整の『女性に関する十二章』は、女性誌「婦人公論」に連載したエッセイをまとめたもの。連載した「婦人公論」がどちらかというとインテリ層を読者とする雑誌であり、そこにこのいかめしいタイトルだから、大上段に振りかぶった女性論のように思えたが、実際は、シニカルでユーモラスな文体と内容を持つ、くだけたエッセイだった。

なおこの本が売れたためもあって、以後"新書判"は、文字どおり新しいタイプの出版メディアとして注目され、大きな市場を獲得していった。

「文藝春秋臨時増刊」として「漫画讀本」が創刊されたのもこの年だが、"序文"を、この伊藤整が記している。時代に対するシニカルな態度を前面に出した雑誌なだけに、伊藤整は巻頭を飾るにふさわしい作家だったのである。序文のタイトルも「漫画に関する十二章」だった。

目次には、実にいろいろな漫画家の名が並んでいて、新聞に連載されていた、「サザエさん」や「フクちゃん」「轟先生」などが一堂に会して掲載されているのも、今から見ればほとんど奇跡的なことである。また、作曲家・福田蘭童や洋画家・東郷青児など、"プレイボーイ"たちが、あからさまにその体験を語る座談会なども掲載されていて、まさに大人の雑誌の面目躍如たるものがあった。

一方、そんなシニカルな雰囲気とは対照的に、豊かな自然と、そこで展開される若者の恋を描いた、三島由紀夫の『潮騒』がベストセラーになった。次第に失われていく自然への挽歌として受けとめられたのかもしれない。映画化されるなど大きな反響を呼んだ小説だった。

●昭和29年のベストセラー

順位	書名（著者／出版社）
1位	「女性に関する十二章」（伊藤整／中央公論社）
2位	「昭和文学全集」（全58巻／角川書店編／角川書店）
3位	「現代日本文学全集」（全55巻／筑摩書房編／筑摩書房）
4位	「君の名は」（全4巻／菊田一夫／宝文館）
5位	「潮騒」（三島由紀夫／新潮社）
6位	「人間の歴史」（全6巻／安田徳太郎／光文社）
7位	「火の鳥」（伊藤整／光文社）
8位	「愛は死をこえて」（J.ローゼンバーグ／光文社）
9位	「カロリーヌ」（C.サンローラン／鱒書房）
10位	「現代世界文学全集」（全46巻／新潮社編／新潮社）

全国出版協会出版科学研究所

▲「女性に関する十二章」（130円）

日本近代文学館提供

▲「潮騒」（280円）

日本近代文学館提供

▲「漫画讀本」（75円）

スターと名場面
モノクローム映画の頂点「七人の侍」と「近松物語」

この頃はモノクロームの映画技術も頂点に達しつつあり、優れた作品が多かった。欧米で高く評価された「七人の侍」（黒澤明監督）もこの年の作品。野武士に襲われそうな村を、一騎当千の侍たちがたくみなチームワークで守り抜くという物語だが、三船敏郎や木村功などの若手スターを向こうにまわして、志村喬や宮口精二らのベテランがさっそうとした演技で、作品に深みを与えた。

溝口健二監督の傑作「近松物語」もこの年に公開されている。長谷川一夫と香川京子による、大経師の手代・茂兵衛と主人の内儀・おさんとの、不義密通の疑いから生まれた悲恋が、溝口健二と、宮川一夫のカメラ、水谷浩の美術などのスタッフによる美しい映像で描き出された。

さらにこの年は「ゴジラ」（本多猪四郎監督）が公開され、特殊撮影技術にとっても記念すべき年になった。

また、戦争を戦争場面なくして描いた「二十四の瞳」（木下恵介監督）は、おとなも子どもも泣かせて、映画の持つ力を十分感じさせる作品だった。

この年はほかに、次のような作品が公開されている。かっこ内はおもな出演者。「山椒太夫」（田中絹代）／「宮本武蔵」（三船敏郎）／「ダイヤルMを廻せ！」（グレース・ケリー）

黒澤プロ／東宝提供

▲「七人の侍」で、村人の先頭に立って野武士と闘う志村喬。

▼「二十四の瞳」は、小豆島の12人の子どもたちと、その先生（中央＝高峰秀子）の、戦前から戦後にかけての感動的な物語。

▲「近松物語」より。悲恋の男女を美しく演じた長谷川一夫（右）と香川京子（左）。

松竹提供

モノ語り'54
「アリナミン」「葉緑素入り歯磨き」「キスミー・スーパー口紅」"健康"と"お洒落"関係がヒット！

◀少しでも臭いを消す工夫　男子用小便器の防臭剤として、鎌田商会（現・白元）が開発して売り出した「トイレボール」が、たちまちロングセラー商品となった。便器においておくだけでいい簡便さと、ひとつで数ヵ月は続くという防臭効果の持続性が評価されたもの。5個入りで30円と、価格も手頃だった。

◀バターに代わるマーガリンが好調　一般家庭のふだんの食卓にのるには、まだバターは贅沢品で、それに代わるマーガリンが、ほとんどバター扱いされていた。牛乳の脂肪分から作られるバターに対して、マーガリンは植物油を原料にしており、雪印乳業の「雪印マーガリン」は1箱90円と、バターのほぼ半額だった。しかもこの年、新たに「ネオマーガリン」が売り出されたこともあって急激に売り上げを伸ばし、マーガリン時代を迎えた。

▼どんどん新しくなるオーディオの世界　LPレコードの登場で様相ががらりと変わったオーディオ界に、今度は45回転の「EPレコード」が日本ビクターから発売され人気を呼んだ。片面に最大で約10分間の収録が可能で、実際には約3分の曲が2曲収録されているものが多かった。すでに発売されていた78回転ドーナツ盤の最大収録約5分間、片面1曲の収録に比べ、割安感もあった。曲はダイナ・ショアーの「ブルー・カナリー」など、表面と裏面で計4曲収録されていた。

▲ビタミン剤の超ロングセラー登場　ビタミンB_1は「元気の素」と言われる栄養素だが、日本人には不足がち。そこに登場したのが武田薬品工業の「アリナミン」だ。ビタミンB_1は水溶性で体内にとどまりにくいのだが、体の中でビタミンB_1になる脂溶性の物質プロスルチアミンの開発に成功、これを錠剤にして100錠550円（30錠200円）で売り出したのである。そして今にいたる超ロングセラー商品となった。

◀センセーションを巻き起こした広告　「キスしても落ちない口紅」という当時としては衝撃的なコピーと、外国人男女のキス寸前の写真を組み合わせた広告で世間のど肝を抜いたのが、伊勢半（現・キスミーコスメチックス）の「キスミー・スーパー口紅」だ。3色からスタートし、最終的には15色発売したが、発売当初の「まだ3色しかできません」というコピーが、逆に高度な製造技術を暗示して、女性たちの信頼を獲得した。1本200円だった。

▼常識を打ち破った葉緑素入り歯磨き　歯磨きというと、白色かピンクが常識だった時代に、サンスター歯磨（現・サンスター）はグリーンの歯磨き「グリーンサンスターシオノギ」を昭和27年末に50グラム入り70円で売り出した。葉緑素に脱臭効果があり、口臭除去の歯磨きとして期待されたが、常識の壁は厚く、そこそこの売れ行き。しかし昭和29年になって消費者に認知され、人気急上昇。グリーンを使った2色刷りの新聞広告も目を引いて、ヒット商品となった。

▶品質を安定させた画期的乾電池　ポータブルラジオの普及などで、急速に需要が伸びたのが乾電池。しかし当時は液漏れが多く、使用機器にダメージを与えることも少なくなかった。当時乾電池というと紙筒の外装で、マイナス極の面は本体の亜鉛缶そのまま。これを完全な金属外装に代え、液漏れをなくしたのが松下電器産業（現・松下電池工業）の「ハイパー乾電池」。1.5ボルト1本40円で発売されヒットした。

人物クローズアップ

中村錦之助（二二）

ひばりの相手役で映画デビュー「笛吹童子」「紅孔雀」が大あたり

◀昭和29年、映画界入りした第1作、内出好吉監督の「ひよどり草紙」で、美空ひばり（写真右）の相手役をつとめる。

中村錦之助のデビュー作となる、映画「ひよどり草紙」が封切られたのは、昭和二九年二月のことである。この映画は、吉川英治の原作を映画化した時代活劇で、新芸プロ作品。美空ひばり（一六）と共演した錦之助（二二）の、ういういしい若衆姿が話題を呼んだ。この作品が封切られた直後、東映に移った錦之助は「笛吹童子」や「紅孔雀」に出演、一躍戦後のニュースターに躍り出る。

中村錦之助は、昭和七年一一月二〇日、東京市赤坂区青山南町（現・港区南青山）生まれ。本名・小川錦一。父は女形の名優・三世中村時蔵で、父の兄が初世中村吉右衛門、弟が一七世中村勘三郎という歌舞伎界の名門。初舞台は歌舞伎座で、三歳の時だった。錦之助の映画界入りは、前年の二八年、「明治零年」という歌舞伎座の芝居に、新選組の一隊士の役で出演したのがきっかけだった。映画の相手役をさがしていた美空ひばりが、この芝居を見て錦之助に白羽の矢を立て、歌舞伎界の旧いしきたりを嫌っていた錦之助は、これを機に映画界へ転じたのである。

錦之助がスターの座を確立することになった「笛吹童子」は、ゴールデン・ウィークを目前にした、二九年四月二七日封切の三部作で、週ごとに一部ずつが上映され、上映館に入場できない人が大勢出るほどの人気になった。

「笛吹童子」は、もともとNHKが昭和二七年から放送を始めた北村寿夫作の連続ラジオ放送劇「新諸国物語」の第二部で、二八年一月から一二月まで放送されたものである。「ヒャラーリ　ヒャラリコ　ヒャリーコ　ヒャラレーロ……」という主題歌が流れると、子どもたちがラジオの前にクギ付けになった。

一躍スターとなった錦之助を、「平凡」や「明星」などの芸能雑誌は、〝錦ちゃん〟と親しみをこめて呼び、芸能界に「錦ちゃんブーム」が訪れたが、それは翌年の映画「紅孔雀」で頂点に達した。「紅孔雀」は五部作で、同じくNHK連続ラジオ劇の映画化だった。主人公・那智の小四郎に中村錦之助、盲目の剣士・浮寝丸に東千代之介、そのほか、大友柳太朗、三条雅也、高千穂ひづる、千原しのぶといった俳優陣。三〇年正月の封切と同時に子どもたちを総ざらいにし、低迷を続けていた東映を、一気にトップ企業に導くこととなった。

錦之助は、その後も東映の看板スターとして「一心太助」シリーズ、「織田信長」「宮本武蔵」「武士道残酷物語」などに出演、東映時代劇の黄金時代を築き上げる。

映画評論家の白井佳夫氏は、

「それまでの時代劇のヒーローは白塗りに決まっていましたが、錦ちゃんは現代的で、しかも歌舞伎のよさを持っていました。顔はきれいだし、テンポが素晴らしい。誰もが認める戦後時代劇の大スターなんです」

と、錦之助の魅力を語る。

四一年、東映を離れてフリーとなった錦之助はテレビに進出する。四六年には、屋号を「播磨屋」から「萬屋」に変更、翌年、名も萬屋錦之介に改めた。

突然の死は、平成九年三月一〇日に訪れる。みずからを蝕み続けた癌との、壮烈な闘いのすえの死であった。戦後のスターが、また一人消えた。

▲錦之助をスターダムに押し上げた「紅孔雀」より。左は東千代之介。

◀三世中村時蔵とその息子たち。右から時蔵の五男・中村賀津雄（後に嘉葎雄）、次男・中村芝雀（前名・梅枝、後に四世時蔵）、三世中村時蔵、長男・二世中村歌昇（後に四世中村歌六）、四男・中村錦之助、中村歌昇の子息（現・五世歌六）。昭和三〇年頃、東映の撮影所で。

「戦争と報道」を追求してインドシナ戦線に散ったR・キャパの〝最後の一枚〟

午後、食事を終えた部隊が前進し始めた時、ロバート・キャパ（四〇）はジープの幌によじ登ってこの写真を撮った。明るい太陽の下、フランス軍の兵士が畑の中を歩いている。左手前方には農家があり、右手には小高い農道と、その先には森が見える。

石川忠行／毎日新聞社

▲キャパはこの年4月13日来日。5月2日、取材のためベトナムへ向かった。

この写真は、戦争の中に日常が顔を出したような、のどかで平和な一瞬に見える。しかし事実は違っていた。森や農家の物陰、深い草むらの中に、緊迫した数十、数百のベトミン（ベトナム独立同盟）軍の目が光っていたのだ。

一九四六年一二月に始まった第一次インドシナ戦争は、ベトナムの再植民地化を意図するフランス軍と、ベトナムの完全な独立をめざすベトミン軍との足かけ九年にわたる戦いであった。一〇万人にもおよぶ遠征軍を派遣したフランスは、その近代的装備にもかかわらず、愛国心に燃えたベトミン軍の前に敗北しようとしていた。

この年一九五四年五月七日、〝難攻不落〟と言われたフランス軍の最重要基地、ベトナム北西部のディエンビエンフーが陥落した。キャパはその前に基地に入ろうと試みたが、ベトミンに包囲されたこの基地に入ることはできなかった。

キャパ最後のショットとなったこの写真が撮影されたのは、ディエンビエンフーの陥落から一八日後の五月二五日である。ハノイの南東七五キロのナムディンという町に近い農村での戦いであった。最前線で孤立したフランスの将兵を救出するため、二〇〇〇人の機動部隊が派遣され、キャパたちもこの部隊に同行していた。午後になって前進を始めた部隊はベトミン軍の攻撃を受けた。予定の時間に目的地まではたどり着けず、あと三キロという地点で部隊は停止した。

キャパと行動をともにしていた「タイム・ライフ」の記者ジョン・メックリンは彼の最期を次のように伝えている（『ロバート・キャパ／Images of War』グロスマン出版社）。

午後二時五〇分、キャパは「ちょっとあたりを見てくるから」とジョンに声をかけた。その後、大砲が轟音を発してベトミンのひそんでいる小さな森を砲撃し、戦車が歩兵の前に出てきて進み始めた。三時五分、歩兵部隊がベトミン軍に向かって突撃し始めた時、鉄帽をかぶった一人の兵士が小隊長のところに駆けてきて、「写真家が死んだ」と報告。ジョンをはじめとするジャーナリスト仲間は驚いて畑から道路に駆け上り、地雷の爆発で穴があいている場所に走り寄った。キャパは左脚が吹き飛ばされ、仰向けになって横たわっていた。呼びかけても返事はなく、わずかに唇が動いた。それが最後だった、とジョンは報告している。

前夜、ナムディンの町のホテルで、生ぬるいコニャックのソーダ割りを飲み、「戦争と報道」について仲間と語り合ったキャパの唇は永遠に閉じた。

遺体は飛行機でハノイに運ばれ、ニューヨーク、東京、パリ……世界の友人たちに向かって「キャパ死す」との電文が発信された。

ロバート・キャパ／マグナム・フォト

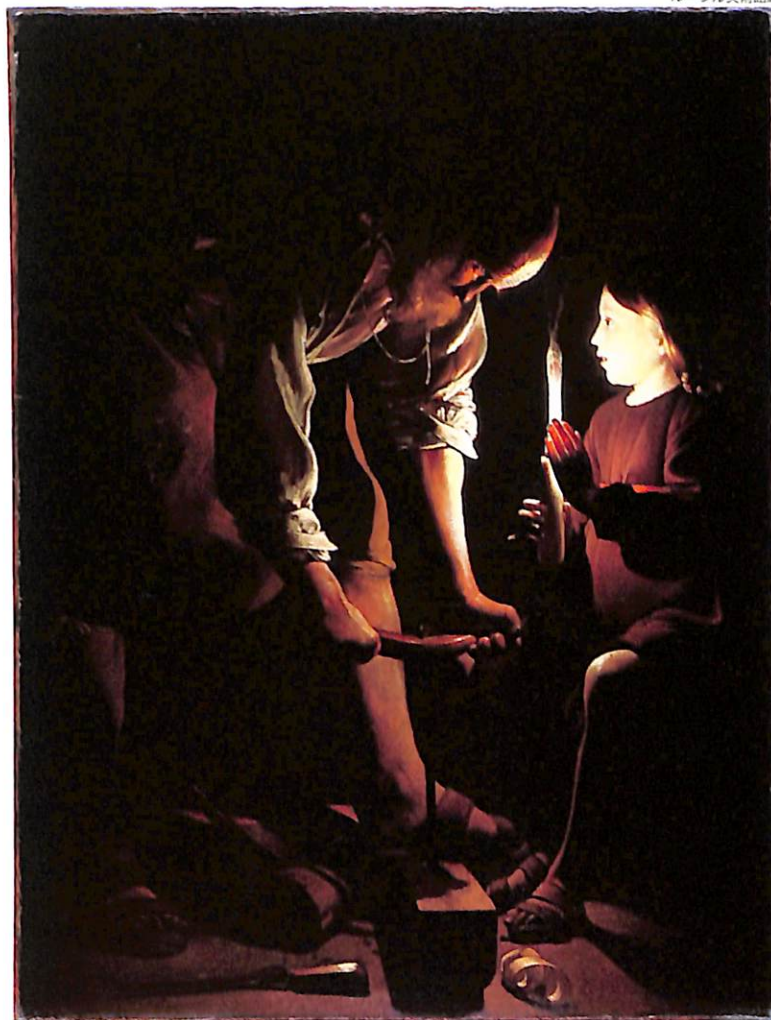
▲1954年5月25日、ベトナム北部、ハノイの南東75キロに位置するナムディンから東のタイビンへの路上で撮影されたカット。

ロバート・キャパ／マグナム・フォト

◀フランス軍地雷探索野戦部隊がタイビンへの道路ぞいに進む。キャパはこのカットを撮影した直後に、右手の土手を登ろうとして地雷に触れた。

美の出会い

フランスそのものがある！ 朝日新聞社が総力をあげた「ルーブル美術展」の大盛況

ルーブル美術館蔵

▲ジョルジュ・ド・ラ・トゥール「大工の聖ヨセフ」。油彩、125×160センチ、ルーブル美術館蔵。ラ・トゥールは17世紀前半のフランスを代表する画家。蠟燭の光の効果をたくみに使い精神性の高い作品を多く描いた。

昭和二九年一〇月一四日、ルーブル美術館の所蔵品を中心とした「フランス美術展」の開会式が、東京国立博物館本館二階で行われた。日本側からは高松宮、秩父宮両妃殿下、緒方竹虎副総理、フランス側からはダニエル・レヴィ大使、ジョルジュ・サール・フランス国立美術館総長らが参列し、消防庁音楽隊による日仏両国歌の吹奏を皮切りに式が始まった。午後三時三〇分、高松宮妃殿下が紅白のテープをカットすると、招待客は待ちかねたように会場に入っていった。

招待客の一人、文芸評論家の中島健蔵は、「朝日新聞」のインタビューに答えて、次のような感想を述べている。

▼ジャン・フランソワ・ミレー「羊の群を守る女」。油彩、81×101センチ。1862〜64年。ルーブル美術館蔵。ミレーはパリ郊外のバルビゾンに住み、田園と農民をテーマに多くの作品を残した。

ルーブル美術館蔵

「すげえな。とにかく大したものだよ。つくづく思うのは、フランスのいいものも、悪いものもすべて一堂に集まっているということだ。ここにはフランスそのものがある。フランス文化の源泉というか、今日の優れた芸術を育てはぐくんできた力もよくわかるし、（中略）楽しかったよ」（「朝日新聞」一〇月一五日）。

東京国立博物館と朝日新聞社の共催で開かれた「フランス美術展」には、中世から近代にいたるおよそ一〇〇〇年のフランス美術の変遷をたどった作品三六五点が、ルーブル美術館、ヴェルサイユ美術館、国立国会図書館、パリ美術館など三一都市の美術館から出品された。

戦後、日本で開かれた大きな海外美術展は、「マチス展」（昭和二六年）をはじめ「ピカソ展」（同年）、「ブラック展」（二七年）、「ルオー展」（二八年）など、いずれも読売新聞社がかかわったものであるが、「フランス美術展」は朝日新聞社が村山長挙会長を先頭に、総力をあげて取り組んだ展覧会だった。かねてから日本の古美術展の開催を希望していたフランス側に対し、朝日新聞社が協力を約束したことで、このたびの開催が決まったのである。前年の五月、日仏文化協定が結ばれ、旧松方コレクションの日本への寄贈が決まったことも大きかった。

「今度もたらされたものは、ルーブルの代表的名品が来るかのような感じを与えた宣伝とは大変違うことだ。フランス美術を宣伝し、啓蒙することを目的とするいわばサンプルのような美術品が主でルーブルの壁を飾る名作とはあまり関係がない」と、美術雑誌の「芸術新潮」（昭和二九年一一月号）の紹介は皮肉を通りこして嫌味たっぷりだったが、ラ・トゥールやル・ナン、アングルなどの絵画作品、カルポー、リュードなどの彫刻、ルイ王朝の家具や工芸品、中世からの肉筆本や版木などが展示され、中島のコメントどおりフランス文化を知るかっこうの展覧会となった。

翌一五日午前九時から一般公開が始まった。当日は開館前から学生、サラリーマンのほかに修学旅行の高校生の団体も加わり長蛇の列ができた。博物館側は「手を触れないでください」と書いたビラを用意し警戒したが、鑑賞マナーは以前の「マチス展」などと比べ見違えるほどに向上し、観客は静かに見入っていた。

通称「ルーブル展」の宣伝もあったのか、最終日の一一月二五日までの約四〇日間の入場者数は五三万人を記録した。

▲10月26日、天皇・皇后両陛下も来館され、東京国立博物館の野間清六の説明を受けながら、一点一点熱心に鑑賞された。 朝日新聞社

20世紀博物館

梅小路蒸気機関車館

京都市

車輪の大きさにまず仰天！「デゴイチ」など一八両の圧倒的世界

桑原茂夫

▲場内を走る蒸気機関車「SLスチーム号」の出発するところ。

一九五〇年代にはまだまだ日本列島をところ狭しと走りまわっていた蒸気機関車の雄姿(ゆうし)に、直接触れることのできる博物館が、京都駅のすぐ近くにある。蒸気機関車が長旅の疲れを休めたり、次の出動を準備する、いわゆる機関区だったところにできた「梅小路(うめこうじ)蒸気機関車館」である。

博物館は、もともとこの機関区にあった扇形車庫を中心とした野外部分と、旧二条駅の駅舎をそのまま移築してできた展示館からなっている。

現在車庫に並んでいる蒸気機関車は、合計一八両。大正三年に製造された8620形、昭和一二年製造のC57形、昭和一三年製造のいわゆる「デゴイチ」D51形、戦後生まれのC61形等々、マニアにはこたえられない実物が展示されている。そばに寄ると、まず何よりも車輪の大きさに驚かされ、蒸気機関車全体の持つダイナミックな雰囲気に圧倒される。

博物館の安岡孝雄さんの話では、蒸気機関車を見てひどく怖がる子どもも少なくないそうだ。先生に連れられ見学に来ていても、突然泣きながら逃げ出して行くなどということさえあるという。バーチャルな世界から、いきなりこういうド迫力の世界に入ると、感覚的に耐えられないらしい。逆に、博物館学芸員の実習にやって来た女子大生が、巨大な機械が走ることに感動したとレポートに残した例もあるという。

走るというと、この博物館では実際に蒸気機関車を走らせてもいる。わずか五〇〇メートルとはいえ、汽笛を鳴らし、煙を吐き、ピストンを動かして走るのである。運転室には、機関士と機関助士がいて、罐(かま)の中に石炭を投げこみながら走る。機関車の後ろには、幌(ほろ)つきの客車があって、ほんのしばしの間だが、蒸気機関車の旅を楽しむことができる。

ひとしきり走ってから、この機関区にもともとあった転車台(てんしゃだい)を使って別の線路に入るところまで見せてくれる。

一方、展示館内では、ここ梅小路機関区がさかんに活動していた頃の様子を見せる模型や、蒸気機関車の貴重な映像、駅務所の実物大の模型、運転室の実物など、マニアならずとも心躍らされる展示物や映写などが見られるが、珍しいのは"投炭練習機"だ。

機関士たちによる罐への石炭の投げこみは、蒸気機関車の走行に直接かかわる。罐の中で石炭が凸凹にならないように、ならしながら投げこまなくてはならないし、そもそも一回約二キロの石炭を、後方の炭水車からシャベルですくい取り、身をひるがえして罐に投げこみ続けるだけのパワーが必要だ。そこで行われたのが投炭練習であり、その競技会である。より早くより確実な投炭に、真剣に取り組んでいたのである。

こうしたことを実物や実感で知ることができる、とにかく刺激されるところの多い博物館である。

▼展示館は明治時代に建設された木造駅舎・二条駅を移築したもので、蒸気機関車が走っていた時代の雰囲気を醸し出している。

▶蒸気機関車の罐。機関士がこの罐の中に石炭を投げこみながら、機関車は走る。

▲大正年間に建設された扇形車庫に蒸気機関車が並ぶ。手前には、蒸気機関車が向きを変える転車台がある。

●梅小路蒸気機関車館
京都市下京区観喜寺町
☎〇七五―三一四―二九九六
JR京都駅から市バスで七条壬生通下車すぐ
開館時間＝九時半～一七時
休館日＝月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始
入館料＝一般四〇〇円（蒸気機関車乗車料金は別に二〇〇円）

初年度予算742億円、16万人体制
「新任務」を拒んで6300人以上が退職する中で
"実質上の軍隊"自衛隊発足！

▲昭和29年6月30日、自衛隊発足の前日、自衛隊旗（左）と自衛艦旗（右）を前にした木村篤太郎初代防衛庁長官。　毎日新聞社

「陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない」――日本国憲法第九条で戦争を放棄し、軍備を持たないことを明言しているにもかかわらず、この年、"実質的な国軍"である自衛隊が誕生した。この"なし崩し的"誕生が尾を引き、自衛隊は本音と建て前の間で、その後四〇年以上にわたって、揺れ続けることになった。

前身の保安隊員からも疑問の声が出た"豹変"

真新しい軍服に身を包んだ音楽隊の演奏と幾重にも縦列を作った部隊の"ザクッ、ザクッ"という靴音が、雨上がりの夏空に響き渡った。

昭和二九年七月一日午前九時、東京・越中島(えっちゅうじま)にある防衛庁本庁では、自衛隊の発足を祝う式典が行われ、午後からは米軍関係者も参加して、航空自衛隊の新設を祝う開庁式も催された。

「みずからの手によって国を防衛せんとする姿勢を整えることがわが国に課せられた責務である」――林敬三統合幕僚会議議長らの幹部を前に、木村篤太郎(とくたろう)新防衛庁長官（六八）は初訓示を述べた。

朝鮮戦争に投入された在日米軍に代わって、国内の治安維持部隊として「警察予備隊」が誕生したのは昭和二五年。その後、予備隊は、冷戦の激化にともなうアメリカの圧力によって、二七年には「保安隊」へと改組された。重装備の拡充など"軍隊色"がより明確になったが、法制上はあくまで「わが国の平和と秩序を維持し、人命および財産を保護する」と治安維持的な性格も残していた。

ところが、この年に誕生した自衛隊は「（外国の）直接侵略及び間接侵略に対し、わが国を防衛する」という、軍隊の使命を最優先に打ち出した。この〝豹変ぶり〟には、発足を前にして保安隊員の間ですら、疑問視する声があがっていたのである。

実際、発足式を五日後に控えた六月二六日、吉田茂首相（七五）が神奈川県久里浜にある保安大学校に駆けつけ、〝将軍の卵〟たちにクギを刺す一幕もあった。「私はこの学校の生みの親である。生みの親の責任も重大だが、諸君が国を双肩に担う決意がなければ、諸君は不肖の子となる」――学生四人が、外国の侵略からの直接防衛が任務に加わったことに対して、「自衛隊には時期尚早」「身柄を拘束されるのはいやだ」と、六月二一日に行われた宣誓式での宣誓を拒否する騒動が起こり、首相みずから説得に乗り出すかっこうになったのである。

〝自衛隊員化〟を拒んで、六月二三日までに退職を希望した保安隊員は六三〇〇人以上にのぼり、この年三月から開始していた新隊員募集も、受け付けから一カ月半後に集まったのは八一一三三人（募集枠は二万八〇〇〇人）。吉田首相が見せた対応は、自衛隊のその後の歩みを予兆させる光景だった。

予兆がさっそく、現実になったかのように、新聞は、宣誓を拒否した元保安隊員の次のような投書を掲載し、紙上で反対派と賛成派の応酬を繰り広げさせた。

「敗戦と同時に日本は武装を解除され、憲法にも戦争放棄をうたったのだ。にもかかわらず、危険を冒す任務遂行になぜ我々の青春を捧げる必要があるのか」↖

▲自衛隊員の演習風景。発足当時の自衛隊の日課は午前6時起床。朝食、点呼があって8時国旗掲揚。それから午後5時まで訓練、間に1時間の休みが入る、というものだった。　毎日新聞社

◀保安隊の目的は「国内の治安維持」だったが、自衛隊は「国家防衛」を第一の任務とした。写真は看板を書く職員。

冷戦と経済成長が生んだ軍事費世界第三位の集団

しかし、ひとたび発足すれば、昭和二九年度には国家予算九九九六億円の一三分の一にあたる七四二億八五〇〇万円が、防衛予算にあてられていた。防衛庁と統合的な指揮を行う統合幕僚会議も新設され、隊員数は陸上が一三万九〇〇〇人、海上が一万六〇〇〇人、航空が六七〇〇人。警察予備隊の発足当時、制服隊員は七万五〇〇〇人だったから、人員では約二倍に増強されたことになる。

装備は、それに輪をかけて本格的だった。駆逐艦一六〇〇トン級「エリソン」「マコム」の二隻を始め、航空機でもF94ジェット戦闘機など一四三機を、米国から借り受けたのである。陸上自衛隊が戦車を「特車」、歩兵を「普通科」と言いかえても、〝外を向いた陸軍〟なのは一目瞭然だった。それだけに、「自衛隊は戦力なき軍隊」と主張し続けた吉田首相は、「言葉の魔術だ」と非難をあびた。

さらに、昭和四〇年には、自衛隊の制服組（武官）が、朝鮮有事を想定して極秘に作った日米共同の戦争計画が暴露される。クーデターによる政権転覆も含んだこの「三矢研究」には、統合幕僚会議事務局長もかかわっていた。予算や作戦は内局（文官）が握るというシビリアン・コントロール（文官統制）の原則から制服組が〝暴走〟した、衝撃的な出来事だった。

自衛隊は誕生後も長く〝日陰者〟扱いされ、深刻な隊員不足におちいる。彼女に彼の入隊を説得させると高校生カップルにつきまとい、彼女に彼の入隊を説得させるといった強引な入隊勧誘が話題になったのは、まだ記憶に新しい。

こうした自衛隊の歩みについて、「自衛隊ほど恵まれて育った軍隊はない」と分析するのは、東京国際大学教授の前田哲男氏だ。

「朝鮮特需で日本が沸き立った復興期に生まれた自衛隊は、高度経済成長や『GNP大国』という追い風を受けて世界第三位の軍事費を使えるまでになった。そして、ついに六二年には歯止めだったGNP一パーセント枠を突破したんです。自衛隊は冷戦を父に、経済成長を母に持つ幸運な〝落とし子〟とも言えます」

ところが、冷戦の終焉で欧米が軍縮を実施しても、わが国は平成二年度から四兆円規模の防衛庁予算（平成九年度は四兆九四〇〇億円）で、コンピュータ制御のイージス艦などを備える軍事大国であり続けた。さらに、湾岸戦争が勃発すると、平成四年には平和維持活動という名の〝海外派兵〟を行うことになる。

「予算が取れるうちに兵器をそろえようという役所的な発想の結果、ハイテク武器があっても、人材がいない事態になってしまった」と軍事評論家の佐藤達也氏が解説するように、自衛隊は〝目的を見失った軍隊〟と化したのである。

毎日新聞社
▲勢ぞろいした「特車」（M型戦車）。当時、1管区隊の持つ火力は、旧陸軍師団の8倍以上だった。

フォト＋日録で再現する365日

▲"オールスター男"山内和弘、真価発揮(7月)プロ野球オールスター戦が4日と5日に西宮・後楽園両球場で行われ、パ軍・毎日の山内は、本塁打、さよなら安打を放ち最高殊勲賞・首位打者賞を独占。

毎日新聞社

▶初の屋上プール(7月15日)東京・田村町(現・西新橋)の日産館に作られた。長さ20メートル、幅6メートルの組み立て式で、珍しい都心の厚生施設として、ビル内の会社員に利用された。

▼カービン銃強盗逮捕(7月22日)6月14日、元保安隊員ら4人が保安庁(現・防衛庁)の経理係長夫妻を銃で脅し、小切手など2000万円を奪った。写真は逮捕された主犯の大津と愛人。

毎日新聞社

▼キッチンカー登場(7月1日)東京都衛生局が初公開。調理台・ガスコンロ・食器棚などの台所用品一式を備え、都内の各保健所をまわりながら、主婦の栄養指導・調理実演にあたった。

共同通信社

▼輸入米から多量の黄変米(7月16日)かびで変色、摂取量によっては肝臓や腎臓に有害とわかったが、滞貨処理のため政府は配給米への混入を決定。消費者などの反対で中止に追いこまれた。

共同通信社

毎日新聞社

▲結核患者、抗議の死(7月27日)厚生省は5月、生活保護患者の入退院基準などを発表。実施反対の患者2300人が都議会議事堂に座りこみ、一人が暑さと疲れで死亡した。写真は担架で運ばれる患者。

昭和29年7月

1(木)●日本中央競馬会法、公布(国営競馬を民営化)。
●防衛庁および陸・海・空自衛隊が発足。

2(金)●昭和二八年度の労組組織率は四一㌫と労働省。

3(土)●新産別、総評などとの統一戦線推進を決定。

4(日)●中国・上海東方で中国船が日本漁船八隻を銃撃、四隻拿捕、二隻が行方不明に。

5(月)●キングレコード、春日八郎の「お富さん」発売。

6(火)●重要文化財「法隆寺の大垣」が雨で崩れる。

7(水)●政府、世銀借款問題で、食糧増産・電源開発の順で折衝と決定。

8(木)●全国町村長会、地方教育委員会廃止を要望。

9(金)●建設省、敗戦からこの年三月までに三五九万戸の住宅が建設されたと発表。

10(土)●日本文化放送、初の深夜放送を開始。

11(日)●カナダの貿易博で日本のデザインが好評、海外進出に道開く、と新聞に。

12(月)●ニューヨーク近代美術館中庭に日本庭園が完成、簡素な表現が好評、と新聞に。

13(火)●『経済白書』、「繁栄は外見だけ、拡大均衡へ地固めの時」と結論。

14(水)●東京都の人口が七七〇万人突破、史上最高に。

15(木)●大阪市警察本部、前夜からの大がかりな捜索でヒロポン密造者など三〇一人を検挙。

16(金)●厚生省、輸入米から大量の黄変米を発見。

17(土)●人間ドックに人気、東京第一病院では五日間八〇〇〇円で九月まで予約済み、と新聞に。

18(日)●労働省、労基法違反容疑で近江絹糸を捜索。

19(月)●東京・築地に一七日入港の鮪から二万㌍の放射能検出。この月中旬から汚染魚が増加。

20(火)●山本周五郎「樅ノ木は残った」、「日本経済新聞」に連載開始。

21(水)●インドシナ戦争休戦のジュネーブ協定調印。

22(木)●京大が翌春カラコルムを探検する、と新聞に。

23(金)●中央気象台が梅雨明け宣言、記録的な長梅雨。

24(土)●冷害の様相強まり、東北六県知事が対策要望。

25(日)●イブ・モンタン主演「恐怖の報酬」封切。

26(月)●福岡市の花火工場で爆発、八人死亡。

27(火)●都内の結核患者約二三〇〇人、改正入退院基準に反対し、都議会議事堂廊下に座りこみ。

28(水)●東京証券取引所で労働組合結成。

29(木)●韓国、竹島に警備隊を常駐させると発表。

30(金)●政府、黄変米の強行配給を決定(反対運動強まり、実施できず)。

31(土)●伊登山隊、世界第二の高峰「K2」に初登頂。

証言・あの日この日

藤子不二雄(20)

▲藤子不二雄は我孫子素雄(写真)・藤本弘の二人。

6月29日(火) 〈朝五時、途中赤羽で乗換えて、新宿着。小雨。トランクを預けてトキワ荘へ。寺田氏、寝ていたが起きてくる。悪いと思ったが上り込み雑談、テンプラうどん取ってくれる。こちらは持参の寿司を出す。グループの件、早速まとめる事にする。十一時、飯田橋学童社へ。手塚御大に会うため。御大『ジャングル大帝』執筆中なり。色々話す。雑誌『少女』へ紹介するから少女物八ページ描いて見るように、といわれる〉(藤子不二雄『二人で少年漫画ばかり描いてきた』)

高岡市から漫画家をめざして上京した二人は、寄宿先の両国に向かう前に、椎名町のトキワ荘を訪れる。そのアパートには先輩・寺田ヒロオが住み、手塚治虫の仕事場もある。後に彼らがそこに暮らす時、赤塚不二夫、石森章太郎といった未来の大物たちと出会う。(坪内祐三)

▼第9回広島原爆記念日(8月6日)平和式典(写真)後の原水禁広島大会では、「第五福竜丸」の被災を機に全国で行われた反対署名が100万人に達したことが発表された。写真奥は翌年完成の平和記念資料館。

毎日新聞社

ユニフォト・プレス

▲プレスリーがデビュー(8月)「ザッツ・オール・ライト・ママ」が大ヒットした。以後、次々に新曲を発表し、ロックンロールの王様と呼ばれる人気者に。写真はミュージカル映画「青春カーニバル」の一場面。

読売新聞社

▲藤沢・橋本10番碁(8月17日)日本棋院を退いていた「関東の風雲児」藤沢庫之助(朋斎・左)九段と、関西棋院の総帥・橋本宇太郎九段が、この日を皮切りに7ヵ月にわたって対決、7勝3敗で橋本が制した。

北海道新聞社

▲北の守りバトンタッチ(8月31日)自衛隊発足後2ヵ月、北海道駐留の米軍1万9000人が東北地方などに撤退を開始、これと交替する陸上自衛隊の第1陣2000人が室蘭に上陸した。

朝日新聞社

◀小御所全焼(8月16日)京都御所にある御殿で、安政2年(1855)の建築。幕末に討幕を決定づけた「小御所会議」の舞台となった。原因は打ち上げ花火の燃えかす。

昭和29年8月

1(日)●東京銀行、初の外国為替専門銀行に転換。

2(月)●三菱日本重工横浜造船所で、従業員の一割に五日間の帰休命令。労組は反発し就労を指示。

3(火)●政府、中国紅十字幹部の入国許可方針決定。戦後初の中国人来日が実現。

4(水)●六月末の賃金未払いは前年の四倍と労働省。

5(木)●日本脳炎流行のきざし、都内ですでに五〇人。

6(金)●天皇、北海道巡幸に出発(最後の地方巡幸)。

7(土)●七月の通関実績は一億四千万㌦余で戦後最高だが依然として入超続く、と大蔵省。

8(日)●原水爆禁止署名運動全国協議会、結成。

9(月)●文部省、基地周辺七〇校に防音工事と発表。

10(火)●文学座「欲望という名の電車」公演。

11(水)●厚生省、青森県・酸ケ湯、栃木県・日光湯元、群馬県・四万の三ヵ所を「国民温泉」に初指定。

12(木)●東京水産大が米から購入した水中テレビカメラの撮影実験に成功。

13(金)●M・モンロー主演「帰らざる河」封切。

14(土)●外務省など、行方不明の在日ソ連代表部書記官ラストボロフは米国に亡命と発表。

15(日)●貿易収支改善進み黒字の可能性、と新聞に。

16(月)●京都御所で小御所が焼失。

17(火)●宇治の平等院で壁画の模写が始まる。

18(水)●台風五号が九州・四国を縦断、犠牲者四五人。

19(木)●北京放送、日本人戦犯四一七人釈放と放送。「総数の三分の一、意外に早い朗報」と外務省。

20(金)●自殺防止のため阿蘇山に駐在所開設と新聞に。

21(土)●警視庁、国電各線の終電車を荒らしていた暴力スリ集団三四人を、この日までに逮捕。

22(日)●真珠採取船団の母船「曙丸」、アラフラ海から真珠貝二億円相当を積み横浜に帰港。

23(月)●陸中海岸・屋久島・西海各国立公園が誕生。

24(火)●米大統領、共産党非合法化法案に署名。

25(水)●捕鯨船「錦城丸」、制限いっぱいの漁獲と新漁場情報を土産に、北洋から横須賀に帰港。

26(木)●千葉県の印旛特別少年院から七六人が脱走。

27(金)●日本短波放送が開局。

28(土)●ラストボロフ事件に関係の元外務省事務官、東京地検で取り調べ中に窓から飛び降り自殺。

29(日)●李承晩・韓国大統領、「日本をアジア・太平洋同盟からはずすべき」との声明発表。

30(月)●地方財政悪化で心配されていた給料遅配が鳥取市で現実に。市職組、労金から融資受ける。

31(火)●釧路市の太平洋炭鉱でガス爆発、三九人死亡。

▲日本初のプロ・テニス試合(9月25日)アメリカのクレーマー、オーストラリアのセッジマンなど、世界のトップ・プレーヤー4人が来日、東京の田園コロシアムで、2日間にわたって6試合を行い、プロの力量を披露した。

読売新聞社

朝日新聞社

▶宇宙線観測気球、成層圏へ(9月16日)関西宇宙線研究グループによって神戸大学校庭から放たれ、みごと成層圏へ到達した。水平飛行しながら宇宙線の飛跡を100枚の乾板に記録、翌日、鳥取県沖で回収された。

▲7歳の天才画家、200号の大作に挑む(9月30日)父親と来日したクロード・岡本君は、東京・有楽町ピカデリー劇場の壁画用に、「赤い騎士」と題する風景画を制作中(写真)。パリではピカソの再来と騒がれ、藤田嗣治画伯にも教えを受けた。

朝日新聞社

朝日新聞社

▲栃錦優勝、横綱の座を確定(10月3日)秋場所千秋楽で横綱吉葉山を寄り切り、14勝1敗で先場所に続き優勝した。第44代横綱となり、多彩な技で名人と呼ばれた。

▲日本人初、フィールズ賞を受賞(9月2日)米プリンストン大客員教授・小平邦彦(前列右・38)が、調和積分論の代数幾何への応用を評価され受賞。平成9年7月死去。

読売新聞社

◀9年ぶりに姿見せた法隆寺金堂(9月16日)昭和20年に始まった解体修理がいよいよ大詰め、工事用の仮屋根が取り払われた。屋根瓦1万5000枚がふき替えられ、屋根も本来の飛鳥様式に復元された。

読売新聞社

◀対ビルマ賠償協定仮調印(9月25日)訪日代表団との1ヵ月間の交渉のすえ、総額2億5000万ドルで合意。両国の批准を待ち、11月5日に平和条約とともに正式調印。

昭和29年9月

1(水)●防衛庁、自衛隊災害派遣に関する訓令を決定。

2(木)●数学者・小平邦彦、フィールズ賞を受賞。

3(金)●中国軍と国民政府軍、金門島で砲撃戦を開始。

4(土)●原水爆禁止求める署名が一〇〇〇万人を突破。

5(日)●ウラジオストク東方でソ連機が米軍機を撃墜。

6(月)●都、財政難で全部長の昇給をストップ。

7(火)●ベネチア国際映画祭で、黒澤明「七人の侍」と溝口健二「山椒大夫」が銀獅子賞を獲得。

8(水)●米・フィリピンなど東南アジア条約機構加盟八カ国、集団防衛条約に調印。

9(木)●ソ連に捕獲され有罪判決を受けた漁船六隻の乗員、家庭の貧困を配慮され根室港に帰還。

10(金)●漢方薬が見直されている、と新聞に。

11(土)●フィリピン政府、戦争中に日本が没収した金の返還を要求。

12(日)●モロトフ・ソ連外相、「中部日本新聞」の質問に「国交正常化の条件はととのった」と回答。

13(月)●米軍観測機に日本人カメラマンが同乗、台風一二号の「目」を映画とスチールで撮影。
●台風一二号が九州を縦断、犠牲者一四六人。

14(火)●品川区で「精米批判会」。半分以上が不良。

15(水)●木下恵介監督「二十四の瞳」封切。

16(木)●日本中央競馬会、発足。

17(金)●早大水泳記録会で、三種目に世界新。

18(土)●独のピアニスト、W・ケンプが二度目の来日。

19(日)●鳩山一郎・岸信介・石橋湛山・三木武吉ら、「反吉田新党」結成で意見一致。

20(月)●国税庁調査、国民は年に一〇回映画を見る。入場料は東京で約一〇〇円、徳島で四七円。

21(火)●輸出拡大のため内閣に「輸出会議」設置決定。

22(水)●一八日以来の雨から放射能を検出、気象関係者はソ連の水爆実験を推測。

23(木)●被曝した「第五福竜丸」の久保山無線長が死去。

24(金)●米・英紙、「第五福竜丸」の久保山無線長の死去に関し、「日本は水爆ヒステリー」と報道。

25(土)●菊池章子が歌う「岸壁の母」、発売。

26(日)●青函連絡船「洞爺丸」が転覆、一一五五人死亡。
●北海道岩内町で大火、約三五〇〇戸焼失。

27(月)●日ソ学術文献交流センター設立。
●中国第一期全人代、毛沢東を国家主席に選出。

28(火)●中国学術文化視察団(安倍能成団長)が出発。

29(水)●米軍の日本人労務者約二万人解雇で日米合意。

30(木)●戦災で全焼、ようやく再建された東京の増上寺に、京都・西光寺が本尊を贈る、と新聞に。

▲東証でスト突入(10月26日)賃上げなどを要求し、明治11年の開設以来初のストに突入。11月9日都労委の斡旋案を受け入れ、27パーセントの賃上げで妥結した。

共同通信社

共同通信社

▶中国紅十字の代表団来日(10月30日)各地で留守家族と会い、抑留者の早期帰国を約束。この訪日で日中交流は活発化した。写真は日赤の島津社長(左から二人目)を訪問の李徳全団長。

▼川崎大師本堂、棟上げ式(10月21日)3万3333円の小銭と35俵分の餅がまかれた。戦災で焼失したもので、総工費は2億5000万円。昭和39年に完成した。

共同通信社

毎日新聞社

▲修学旅行悲劇、相模湖で遊覧船転覆(10月8日)東京・麻布学園の中学生78人のうち22人が死亡した。船長が35人の定員を守らなかったのが原因。写真は湖底をさぐる捜索隊。

田中真知郎

◀四日市で原油タンク爆発(10月15日)大協石油第3号タンクが爆発、ほかのタンクや工場も延焼。地元消防陣では消せず、東京から届いた新型消火剤で35時間後にようやく鎮火した。

昭和29年10月

1(金)●町村合併促進法施行後一年、この日までに全国で一六五九町村が姿消す。

2(土)●豊橋市の花火工場で爆発、七人死亡、六人負傷。

3(日)●甲府市のぶどう狩り人気、混雑で列車止まる。

4(月)●八丈島の農協が農産物輸送用航空機を購入、東京市場へ即日出荷ねらう、と新聞に。

5(火)●白鳥庫吉『神代史の新研究』刊行。

6(水)●沖縄の米軍、強制接収反対の瀬長人民党書記長らを逮捕(21日、軍事裁判で瀬長に懲役刑)。

7(木)●佐賀県嬉野町でバスが転落事故、一三人死亡。

8(金)●神奈川県の相模湖で遊覧船が転覆、修学旅行中の中学生二二人が死亡。

9(土)●ベトナム民主共和国、ハノイを首都と定める。

10(日)●光文社「カッパ・ブックス」刊行開始。

11(月)●茨城県徳宿村で不審火。焼け跡から七死体が発見され、毒殺・放火事件と判明。

12(火)●栃錦、横綱に昇進、推挙式。

13(水)●日経連総会、「清新・強力な政治勢力で政局安定を」との見解採択、吉田政権に不満表明。

14(木)●東京国立博物館で「フランス美術展」開催。

15(金)●大映がニューフェイス試験、二〇人採用に八〇〇〇人が応募。

16(土)●天皇、戦後初めて傷痍軍人と会見し激励。

17(日)●ネルー・インド首相、ハノイでホー・チ・ミンと会談(19日、北京で毛沢東と会談)。

18(月)●長崎県彼杵町の農民が、米軍接収の大野原演習場内での耕作を「弾丸にあたっても」と嘆願。

19(火)●スエズ運河からの英軍撤退を規定した「英・エジプト協定」、調印。

20(水)●経済同友会大会、保守合同を実現せよと決議。

21(木)●全日本海員組合、ユニオンショップ制を採用。

22(金)●多発する空気銃事故の大半が無免許少年と判明、鳥獣保護連盟が対策会議を開催。

23(土)●日航国内線に初の日本人機長二人が誕生。

24(日)●三重県二見町でバスが海に転落、一三人死亡。

25(月)●歓楽地・熱海への修学旅行が増加、と新聞に。

26(火)●エジプトでナセル首相暗殺未遂事件。

27(水)●芦屋市の市街地近くに熊が出没、住民大恐慌。

28(木)●米のヘミングウェイ、ノーベル文学賞を受賞。

29(金)●スカルノ・インドネシア大統領、アジア・アフリカ会議をバンドンで開くと言明。

30(土)●日赤の招きで、中国紅十字訪日代表団が来日。

31(日)●アルジェリア民族解放戦線、対仏武装闘争を宣言(11月1日蜂起、内戦が始まる)。

ユニフォト・プレス

▲**ナセル、権力掌握(11月14日)**エジプトの最高機関・革命軍事会議がナギブ大統領を解任、全権をナセル首相に与えた。写真は前年、革命1周年記念式で同席したナセル(中)とナギブ(右)。

▼**クラーク・ゲーブル来日(11月13日)**香港ロケの途中に立ち寄ったもの。米映画「風と共に去りぬ」で日本でも人気の渋い二枚目は、各映画会社の大物女優に迎えられ、終始ご機嫌だった。

毎日新聞社

報知新聞社

▲**白井義男、5度目の防衛ならず(11月26日)**東京・後楽園で行われた世界フライ級タイトルマッチで、同級4位アルゼンチンのパスカル・ペレスの強烈なフックで2度ダウンを奪われ、判定負けした。

▼**人気の街頭録音(11月)**朝日放送の「お笑い街頭録音」は司会に漫才の中田ダイマル・ラケットを起用して大好評。写真は神戸での録音風景。テーマは「もしもひとつ望みがかなえられたら」だった。

朝日新聞社

ユニフォト・プレス

▲**フランソワーズ・サガン、文壇デビュー(11月)**『悲しみよ、こんにちは』を出版、フランスで84万部、アメリカで130万部のベストセラーとなった。パリ大学在学中の19歳だった。

▶**女子プロレスラー来日(11月11日)**東京・蔵前国技館での「世界女子プロレスリング大試合」に、米、伊などの6選手が参加。19日からの試合は身体障害者救済の募金を兼ねて行われた。

共同通信社

朝日新聞社

▶**兵庫県に革新系文人知事(12月12日)**社会党左右両派推薦の坂本勝(中央)が、自由・民主両党の推す現職の岸田幸雄を大差で破った。中央政界の混乱と岸田3選阻止の県民の意思が勝因だった。

◀**プロレス初の日本選手権(12月22日)**柔道の木村政彦か相撲の力道山(左)か。東京・蔵前国技館は1万5000人の観衆で超満員。関節技と投げ技の応酬から力道山の空手チョップで木村が昏倒、力道山が判定勝ちした。

朝日新聞社

▶**被爆馬(12月15日)**広島県祇園町で発見。12歳の木曽馬で、爆心から520メートルで被爆したが生き延びた。原爆障害調査委員会のロビンソン博士は、赤血球・白血球の減少など後遺症を確認した。

中国新聞社

▼**「ゆう・もあ・くらぶ」発足(12月14日)**生活を明るくする趣旨の会。徳川夢声、森繁久弥、三木のり平らが東京の日比谷公会堂で発会式を行い、ユーモア精神を呼びかけた。

毎日新聞社

▲**おいしくなった給食(12月)**学校給食法施行で施設も充実。豊富な献立で、給食は子どもたちの最も楽しみな時間になった。写真は桐生市南小学校の給食風景。

▼**帝国ホテル新館開業(12月2日)**7階建て200室300人収容、総工費は8億円。翌年5月まで全室予約済みという。写真は旧館(手前)とクリーム色の大理石を使った新館。

朝日新聞社

共同通信社

昭和29年11月

1(月) ●切手つき封筒「簡易書簡」発売(一一円)。
●市外通話の時間制限(九分間)が撤廃される。
2(火) ●米軍、航空自衛隊初のジェット機訓練基地を福岡県築城村に設置すると発表。
●中国から釈放された漁船員二九五人が博多着。
3(水) ●法隆寺金堂「昭和大修理」が完了、落慶式。
●東宝の特撮映画「ゴジラ」が封切。
4(木) ●不況で中古自動車が投げ売り時代、と新聞に。
5(金) ●日本・ビルマ、平和条約と賠償・経済協力協定に調印。
6(土) ●仏軍降下部隊などがアルジェリアに侵入。
7(日) ●米国務省、ソ連機が北海道沖で米B29機を撃墜と発表。ソ連は「米機が先に発砲」と反論。
●プロ野球日本シリーズ、中日が初の日本一に。
8(月) ●木村防衛庁長官、徴兵制度が望ましいと答弁。
9(火) ●警視庁、御徒町のマーケット街を急襲、ヒロポンの密造・使用などで二二人逮捕。
10(水) ●日米首脳会談。米の対日援助強化を強調。
11(木) ●東京・池袋のパチンコ店で、好調の客に暴行。
12(金) ●石炭業界、不況のため出炭制限を決定。
13(土) ●東北本線で闇米一斉取締り、二八〇俵摘発。
14(日) ●群馬県の野反ダムで人工地震実験に成功。
15(月) ●全国農業協同組合中央会、設立。
16(火) ●東京のデパートで、陶芸家バーナード・リーチの個展開催。滞日二年の作品二〇〇点展示。
17(水) ●警視庁、連発式パチンコ禁止決定(翌年実施)。
18(木) ●「朝日新聞」、中小炭鉱の窮状をルポ。
19(金) ●バイオリニスト江藤俊哉、帰国第一回演奏会。
20(土) ●防衛庁、少年自衛官の募集を開始。
21(日) ●盗伐、門松やクリスマスツリーのための伐り出しで森林が荒れている、と新聞に。
22(月) ●日本漁船二隻が東シナ海で正体不明の軍艦に撃沈される。
23(火) ●改進党、新党結成のため解党を宣言。
24(水) ●日本民主党、結成。総裁に鳩山一郎を選出、吉田内閣不信任案提出動議を採択。
25(木) ●医師七二〇〇人が、医薬分業に反対のデモ。
26(金) ●昭和二八年度の一人当たり国民所得は六万八五八二円で、初めて戦前水準を超えたと判明。
27(土) ●カンボジア、対日賠償請求権を放棄と通告。
28(日) ●富士山で雪崩、登山訓練中の学生一五人遭難。
29(月) ●労働省、不況による就職難打開のため、学生就職対策本部設置を決定。
30(火) ●只見川・田子倉ダムの本工事、着工。

昭和29年12月

1(水) ●日本キリスト教団、戦後初の「賛美歌」改訂。
2(木) ●米上院、マッカーシー議員非難決議案を可決。
3(金) ●中学入試に備える塾が隆盛、都内だけで百数十カ所、と新聞に。
4(土) ●鳥取県知事選挙、革新系の遠藤茂が当選。
5(日) ●自宅でできる「ホーム・パーマ液」めぐり、美容業界とメーカーが安全論争、と新聞に。
6(月) ●民主・左右社会三党、内閣不信任案提出。
7(火) ●吉田内閣総辞職。
8(水) ●滋賀県堅田町の真宗・本福寺で火災、六〇〇年前建立の本堂・古文書多数を焼失。
9(木) ●東京で五人組の暴力団員が「お礼参り」、警察官を袋だたき(「お礼参り」が社会問題に)。
10(金) ●第一次鳩山内閣、成立。
11(土) ●閣議、公務員の接待麻雀・ゴルフ禁止を決定。
12(日) ●兵庫県知事選挙、革新系の坂本勝が当選。
13(月) ●ラジオはクイズばやり、聴取者参加と賞金が魅力、と新聞に。
14(火) ●原水爆禁止を求める署名が二〇〇〇万人突破。
15(水) ●一〇月に引退した元横綱東富士、年寄を廃業。
16(木) ●モロトフ・ソ連外相、重光外相の新外交政策に対し、対日関係正常化の用意と声明。
17(金) ●歌手・石井好子、仏から四年半ぶりに帰国。
18(土) ●千葉大の中山恒明研究室、アイソトープを利用した胃癌の早期発見法を完成、学会で発表。
19(日) ●鳩山首相、初の遊説で対中ソ外交に意欲。
20(月) ●東北大の成瀬教授ら、歯車の生産を飛躍的に効率化する「熱間転造法」を完成、と新聞に。
21(火) ●都立松沢病院で患者が患者を殴り殺す。ヒロポン中毒者などによる定員超過が原因。
22(水) ●プロレス初の日本選手権。力道山が木村破る。
23(木) ●北海道・東北に猛吹雪、最大風速四〇メートル。
24(金) ●写真家の岡田紅陽、松竹映画のタイトルに富士山の写真を無断使用されたとして提訴。
25(土) ●原子力利用海外調査団、第一陣が羽田発。
26(日) ●家族ぐるみ・町ぐるみの争議と呼ばれた、日本製鋼所室蘭製作所争議が一九三日目に解決。
27(月) ●主婦連が東京・世田谷で、市価より五円安い「二〇円牛乳」を販売、好評。
28(火) ●経済審議庁、特需は前年比四三%減と発表。
29(水) ●アジア五ヵ国首脳会議、アジア・アフリカ会議への日本・中国招請を決定。
30(木) ●米科学者グループ、光合成実験に成功と発表。
31(金) ●厚生省など、鮪の放射能検査をこの日で中止。

俄楽多市

流行語 若者文化は深夜に……

「深夜放送」。七月一〇日、日本文化放送（現・文化放送）が日本初の深夜放送を開始、若者たちに圧倒的な人気を博した。これをきっかけに深夜放送は若者文化の大きな潮流となり、新しい風俗も次々に生まれた。

「ロマンスグレー」。飯沢匡の小説のタイトルが流行語となったもので、白髪のまじり始めた魅力的な中年男性を言う。経済力があり、女性の扱い方が上手、しかも後腐れのないことが〝ロマンスグレー族〟の条件とされた。

「むちゃくちゃでござりまするがな」。NHKのラジオドラマ「お父さんはお人よし」で、花菱アチャコが演じるお父さんが口にするせりふ。いかにも気の弱そうな口調が受けた。このドラマからはほかに「えらいことになりにけり」「わたし、どうしましょう」などの流行語も生まれた。

「性転換」。日本の性転換手術は昭和二七年から始まったが、この年一月、女子槍投げの第一人者・堤妙子選手が性転換手術を受けてから、この言葉が一般に広がった。

ペンタックスギャラリー提供

▲11月、クイックリターン・ミラー採用の一眼レフ「アサヒフレックスⅡB」が発売。

子ども 仮想現実の走り!? ミルク飲み人形、大人気

昭和二九年は女の子たちの間で軟質ビニール製のミルク飲み人形が大人気となった。小さなママたちの母性愛を満足させるように仕掛けも実にリアルで、名前のとおり、水を入れた哺乳瓶を人形の口にあてがうとちゃんと飲むうえ、おしっこまでする。人形を抱いた時の柔らかい感触も女の子を喜ばせ、「今、一番欲しいもの」という調査ではいつでも首位を占めた。この人形、おしめカバー、紙おしめ、ベビー服（二枚）、スリップ、ズロース、フード、ハンガー三個がセットで一二〇〇円。もりそば二五円、タバコのピースが四五円の頃だからかなり高価だったが、東京のあるデパートでは一日に六〇個売れたこともあった。

（斎藤良輔『昭和玩具史』）

流行 いよいよ到来 美容体操のブーム

四月一二日からNHKラジオで、毎日四分間の美容体操が始まった。郵政省簡易保険局とNHKが「あなたの健康のために」といううたい文句で始めたもので、初日には東京・日比谷公会堂で美容体操の発表会も行われた。これがご婦人方に爆発的な人気を得たのだが、女性たちの関心は何といっても〝八頭身美人〟にあった。日本人は足が短いから七頭身がせいぜいだが、女性たちは美容体操という言葉のイメージから、八頭身になれるのではないかという夢を描いたのだ。このため関係者はよく女性たちから「美容体操をすれば八頭身になれるでしょうか」と質問攻めにあった。

（「サンデー毎日」一一月一五日号）

データ 受験料と入学金 大学の稼ぎっぷり

私立大学は受験料と入学金、それに設備費などの名目の寄付金で莫大な収入を得ている。日大など年間経営費の七割をいっきょに稼ぐほど。そこで受験料と入学金、寄付金で大学が稼ぐ金を調べた。

日大＝三億九五〇〇万円、早大＝二億五四二八万円、中大＝二億四〇〇〇万円、明大＝一億五九六〇万円、慶大＝七五〇〇万円、日本女子大＝一七〇〇万円、東京女子大＝一〇三九万円。

（「週刊サンケイ」三月二一日号）

◀福井英一作「赤胴鈴之助」が「少年画報」八月号から連載。福井が急逝したため、武内つなよしが引き継ぐ。左二点武内作。

新聞CM「嫁ぐ日近く……」（高島屋）

▲白を基調にした新鮮なイラストで、朝日広告賞などを受賞した。

朝日新聞社

▶五月三〇日、大阪で開かれたファッションモデルの選考会。三五〇人中、合格したのは三人。

◀12月、法隆寺金堂に、バルブをあけると水の幕に包まれるという防火設備が取り付けられた。
共同通信社

三面記事 歯から血液型、法医学の快挙

昭和二九年、金沢大学法医学教室の志村忠男博士が、歯の固い組織から抽出した材料で、血液型を判定することができると報告した。

これは世界で初めての発見であった。その頃、私も東大法医学教室で電極法という志村氏とは異なった方法によって、歯から血液型を判定できることを確認した。歯は人間の体の中で最も硬く、物理的化学的影響を受けにくく、人の死後も最も遅くまで残る点から考えて、法医学的にきわめて重要な意義を持つものであった。

その後、岡山大学の高田秀雄博士が解離試験法という方法によって、歯の血液型の判定に成功した。このように歯から血液型を判定する研究は日本だけで成功した快挙であったから、諸外国からも大いに注目された。

（鈴木和男『法歯学の出番です』）

レジャー 広島のキャバレーで女子プロレス誕生！

女子プロレスの考案者は広島でキャバレー「グランド」を経営する横山広。その頃、彼の経営するキャバレーは不景気のどん底で、あと二ヵ月もつかもたないかという瀬戸際だった。たまたま大阪で喫茶店に入ったところテレビで力道山が暴れまわっている真っ最中。彼は最後の賭けとして女性にレスリングをやらせることを思いたった。レスラーはダンサーから募集することにし、全員を女子柔道大会に連れていった。ダンサーは日頃いけ好かない男への憤懣をうっ積させている。女子柔道の熱闘はダンサー諸嬢を大いに刺激し、たちまち一二人が応募した。彼はその中から五人を選抜、ここに女子プロレスが正式に誕生した。

記念すべき第一戦は一〇月二五日、キャバレー「グランド」で開かれた。そのうたい文句には〝突如として現れた日本初の女子レスリング！　血湧き肉躍るこの快挙〟とあった。

（「毎日グラフ」昭和三一年四月八日号）

避妊 全国平均三二％ 夫婦の受胎調節

厚生省が全国九万四〇〇〇組の夫婦を対象に避妊の調査を行った。それによると市部三七％、郡部三〇％で平均三三％が避妊をしていた。東京、神奈川、長野は四〇％以上だが、九州は各県とも平均以下で、そのかわり出産率は日本一だった。

（「毎日新聞」一〇月六日）

社会 貯水用堰の管理費 八〇年目の値上げ

〔長野発〕長野県富士見村に貯水用の堰がある。七つの区で管理しているが、日当は明治六年に決めたまま一度も値上げしていない。今年の決算報告は水揚げ仕事の日当七八人分三円二七銭六厘、堰見まわり日当三人分一二銭六厘、世話係日当三人分一二銭六厘。これを書く紙代が二円。さすがにこれでは安すぎると値上げを考えることになった。

（「朝日新聞」四月二三日）

◀「春のバラ展」が五月二一日から東京・銀座松坂屋で開かれた。出品は千余点。
共同通信社

この年の初もの 年間ボーナス協定 名鉄労使が結ぶ

●**シャンソン喫茶**　東京・銀座のキャバレー「銀巴里」がシャンソン喫茶にころもがえ。

●**フェリーボート**　徳島県鳴門—兵庫県福良間に就航。

●**テレビのテロップ**　日本テレビが九月から使用開始。

●**映画の吹き替え**　ディズニーのアニメ映画「ダンボ」が初の日本語吹き替えで公開。

三越提供

▶三月七日、戦後初の全国コリー犬展覧会が、東京・日本橋三越で開かれ、五〇頭が参加。

はやり歌

お富さん　作詞 山崎正　作曲 渡久地政信

粋な黒塀　見越しの松に
仇な姿の　洗い髪
死んだ筈だよ　お富さん
生きていたとは　お釈迦さまでも
知らぬ仏の　お富さん
エーサオー　玄冶店

過ぎた昔を　恨むじゃないが
風も沁みるよ　傷の跡
久しぶりだな　お富さん
今じゃ呼び名も　切られの与三よ
これで一分じゃ　お富さん
エーサオー　すまされめえ

かけちゃいけない　他人の花に
情かけたが　身のさだめ
愚痴はよそうぜ　お富さん
せめて今夜は　さしつさされつ
飲んで明かそよ　お富さん
エーサオー　茶わん酒

キングレコード提供

▲春日八郎が歌って大ヒット。伝統芸能ファンから批判が出たという逸話も残した。

岸壁の母　作詞 藤田まさと　作曲 平川浪竜

母は来ました　今日も来た
この岸壁に　今日も来た
とどかぬ願いと　知りながら
もしやもしやに　もしやもしやに
ひかされて

呼んで下さい　おがみます
ああおっ母さん　よく来たと
海山千里と　いうけれど
なんで遠かろ　なんで遠かろ
母と子に

悲願十年　この祈り
神様だけが　知っている
流れる雲より　風よりも
つらいさだめの　つらいさだめの
杖一つ

▲息子の帰還を信じて、引揚げ終了後も舞鶴港にかよった女性がモデル。歌は菊池章子。

「ローマの休日」公開！“永遠の妖精”ヘプバーンが日本中を虜にした

川喜多記念映画文化財団提供

▲「ローマの休日」より。王女アンが各国大使、外交官らとの公式会見を行っている冒頭のシーン。

▶「ローマの休日」より。スペイン階段でのグレゴリー・ペック扮する新聞記者との再会シーン。

昭和二九年、オードリー・ヘプバーンの初主演作「ローマの休日」が公開されるや、日本列島はたちまち知的で清楚な彼女の魅力にとりつかれた。観客動員は記録を塗り変え、娘たちはこぞって「ヘプバーン・カット」に走った。日本中を熱狂の渦に巻きこんだ「ヘプバーン旋風」の幕開きであった。

「日本人はこぞってヘプバーンに恋をした」

「プリンセス・アンに扮したヘプバーンはいつまでも、『わが青春のヘプバーン』として生き続けるだろう」「日本人はこぞってヘプバーンに恋をした」「彼女は、清楚で気品にあふれ、しかも親しみやすい庶民性を備えた逸材」。

ファンも評論家も文句なく参ってしまった。「ローマの休日」のオードリー・ヘプバーン（二四）の登場は、まさに鮮烈という以外になかった。

この作品は、ウィリアム・ワイラー監督の、ハリウッド好みのロマンス劇——。ヨーロッパ旅行中のある小国の王女アン（ヘプバーン）は、いつも侍従つきの生活にうんざりしていた。そしてローマに着いた時、彼女はすきを見て大使館からの脱出に成功、やっと手にした“自由”に大はしゃぎ。やがてベンチで眠りこみ、通りがかりの新聞記者ジョー（グレゴリー・ペック）に起こされる。そして……。美しいローマ市街を舞台に、アンが繰り広げる一日の逃避行と新聞記者との淡い恋を描いた気品高い作品だった。

この一作で、ヘプバーンはスクリーン界で最高の栄誉であるアカデミー主演女優賞を射とめた。

王女アンの役柄そのままの知的でチャーミングな魅力は、「ハリウッド女優のタイプに革命をもたらした」としてアメリカのマスコミにも大きく取り上げられた。週刊誌「タイム」は、ヘプバーンを表紙に起用し、「ピカピカ光っている人造ダイヤのような『ローマの休日』の作り話の中で、このパラマウントの新スターは本物のダイヤモンドのようにきらめいている」と絶賛した。

とはいえ、アメリカでの興行成績は今ひとつパッとしなかった。だが、日本では違った。昭和二九年四月二七日の公開以降、「ローマの休日」は各地の映画館で、記録的な興行成績を記録する。

東京の日比谷映画劇場では、一週目の動員数七万三一八二人、興行収入も一〇三一万八〇一二円という驚異的な売り上げとなった。続く二週、三週目も客足は衰えず公開期間は一七日間延長され、配給収入は従来の外国映画の記録をあっさり塗り変え、二億八四〇四万円を達成。従来の一週間分の売り上げを一日で上げてしまったことも。そして「風と共に去りぬ」や「グレン・ミラー物語」など、戦後封切られた洋画の興行記録をはるかにしのぐ大ヒットとなった。

前髪をおろしたショートヘプバーン・カット大流行

映画公開の直後から、日本各地ではヘプバーン・カットが大流行。封切からわずか二ヵ月後には、東京・日本橋の白木屋（現・東急デパート）で「ヘプバーン・スタイル審査会」が開かれ、短髪の女性が大挙参加した。全国各地で東京から美容師を招いたヘプバーン・カットの講習会や、美人コンテスト（沼津）が相次いで開催され、流行に敏感な女性たちが、こぞって前髪をおろしたショート・カットに変身したのである。芸能界も例外では

▶6月29日、東京・日本橋の白木屋で開かれた「ヘプバーン・スタイル審査会」風景。

朝日新聞社

外から見たNIPPON

建築家グロピウスが注目した日本家屋の〝近代性〟

佐伯　修

この年、二ヵ月にわたって日本の建築を視察した、ドイツ生まれの建築家ワルター・グロピウス（一八八三〜一九六九）は、日本の伝統的な住宅建築について、次のような「感想」を述べた。

「日本にきて驚いたことは、日本住宅にみられる近代性ということだ。そこには開放性、転用性、簡素さというものがよく表現されているし、タタミというものが尺度になって人体的な関係を保ちながらよく調和したものを生み出している。また障子や土管などが既製品として工場生産されているのも知り百年以上も前から建築の一部については量産の過程に入っていたのに注目させられた」（「朝日新聞」七月三一日）

彼は、「日本の住宅の開放性」について、「封建制の所産」とか「家長が家族をよく見通せて自分の支配下におけるようになっているのだ」とする一部の建築家の意見を退け、むしろ、それを積極的に評価した。

「日本人はタタミの上に座ることからイスも、ベッドも必要ではなく簡素な美しいものとなっていた。日本の文化は長い伝統を持ったものである。それなのにどうして西欧文化のあとを追おうとするのだろうか。多くの人たちからタタミを廃止しろという意見も聞かされたが、タタミを日本の住宅からすぐに追出すことは出来ないことだ。私は伝統とのつながりを忘れて、いきなり新しいものに飛びついてゆくことは危険だと思う」

「ワイマール時代」のドイツに、総合的な造形教育機関「バウハウス」をおこし、ナチスを嫌ってアメリカに帰化したグロピウスは、当時、バウハウスの〝同志〟ファン・デル・ローエらと、米国内に新時代の摩天楼を相次いで出現させつつあった。

そんな、建築と造形の革新者、グロピウスによる、右のような、日本家屋の伝統擁護の言は、奇異と見る向きもあるかもしれない。だが、彼は、何もあらゆる伝統を墨守せよとは言っていない。彼は日本家屋の開放性や畳に、日本人の居住空間に対するヒューマンな身体性を見たのであり、それが、彼のめざす造形や建築の革新の方向と合致していた、ということなのである。

「住宅の中に困ったものがあっても、その代りのものがない限り、無暗に旧いものだからと捨て」てはいけないと彼は強調する。

一方、日本の近代建築に対するグロピウスの評価は厳しい。日本人本来の「人間的なスペースやスケール」を、今後、高層建築にも活かすべきだと言っている。

▶典型的な国際様式建築の住宅に住んでいる。

なかった。当時の人気女優、久我美子、淡島千景、有馬稲子などもスクリーンでヘプバーン・カットを披露して見せた。さらには美空ひばりまでもが、自慢の長い髪をばっさり。ヘプバーン・カットでなければ夜も日も明けないといっても過言ではなかったのである。

それればかりではなかった。東京・山の手のあるデパートでは、約九〇〇名の女子従業員のうち一割近くがヘプバーン・カットに転向。これを禁止しようとした経営者側と女子従業員が対立、あわや労働争議というハプニングまで生んだ。

ヘプバーン（本名エッダ・キャスリーン・ヘプバーン・ファン・ヘームストラ）は、ベルギーのブリュッセル出身、由緒ある家系に生まれた。第二次大戦中は、対独レジスタンス運動に参加していた。ナチス占領下で兄が強制収容所に送られ、伯父やいとこが処刑されるなど苦難の青春期があったのだ。

彼女はその後、「麗しのサブリナ」「尼僧物語」「ティファニーで朝食を」「シャレード」「マイ・フェア・レディ」など合計二〇本の作品に出演している。だが、二度の離婚と四度の流産を経験するなど、私生活はかならずしも平穏ではなかった。次第に映画界から離れ、一九八七年からは、以前より切望していたユニセフ（国連児童基金）活動に参加、八八年には親善大使として精力的に活動した。

一九九三年一月二〇日、銀幕を離れてなお世界中の人々に愛されたヘプバーンは、スイス・ローザンヌ近郊、レマン湖畔の自宅で恋人と息子二人に見守られて静かに息を引き取る。享年六三であった。

その死後もヘプバーン人気は衰えることがない。出版社やビデオ業界ではヘプバーン作品が次々とラインアップされ、旅行会社はヘプバーンゆかりの地をめぐる「ヘプバーン・ツアー」を企画し好評を得た。テレビ局そのほかによる海外有名女優の人気度調査でも、若い女性を中心に、年齢、性別を問わず常に幅広く支持され、他を寄せつけない圧倒的なトップにランクされ続けている。「永遠の妖精」は、時代を超えて今なお、観客を魅了して離さないのである。

▶「ローマの休日」撮影中のウィリアム・ワイラー監督（写真中央左）とヘプバーン。ワイラーの鮮やかな演出が光った。

往きて還らぬ

◀3月5日　岸田国士（63）
劇作家、小説家。大正一三年処女戯曲「古い玩具」発表。繊細な作風。昭和一二年文学座結成。小説に「暖流」。

▲10月6日　尾崎行雄（95）
政治家。明治23年政界入り、以後連続25回当選。大正期は普通選挙運動で活躍、〝憲政の神様〟と言われた。

▶11月3日　アンリ・マチス（84）
フランスの画家。フォービスム運動を経て、一九〇四年色も形も単純化された独自の画風を確立した。

▲2月1日　三島弥彦（69）
陸上選手。明治44年五輪予選会で100・400・800メートルで優勝。翌年ストックホルム五輪に日本人として初出場。

▲4月7日　伊東忠太（86）
建築家。平安神宮、明治神宮、築地本願寺などを設計。東大、早大教授をつとめ、昭和18年建築界初の文化勲章受章。

▲11月30日　W・フルトベングラー（68）
ドイツの指揮者。ベルリン・フィル、ウィーン・フィルなどで活躍。ベートーヴェン、モーツァルトを得意とした。

▲9月5日　初世中村吉右衛門（68）
歌舞伎俳優。明治30年初舞台。時代物が得意で、6世尾上菊五郎とともに菊・吉時代を築く。昭和26年文化勲章受章。

▲5月25日　ロバート・キャパ（40）
世界的に知られた報道写真家。1936年スペイン内戦中、倒れる人民軍兵士の写真で有名に。取材中地雷に触れ爆死。

▲2月12日　本多光太郎（83）
金属物理学の第一人者でＫＳ磁石鋼を発明。東北帝大総長、東京理科大学長をつとめる。昭和12年文化勲章受章。

▼7月28日　上山草人（70）
映画俳優。大正から昭和初期、ハリウッドで脇役として活躍。昭和6年帰国。「東洋の母」「七人の侍」に出演。

▲12月8日　J・B・キーナン（66）
米国の法律家。戦後、極東裁判の米国主席検事・連合国主席検察官に任命され、日本でA級戦犯裁判を担当した。

▲9月21日　御木本幸吉（96）
実業家。出身地の三重県で、明治中期真珠の養殖に成功。後に〝ミキモト・パール〟として、世界的に知られた。

▲2月14日　相馬愛蔵（83）
カレーで有名な新宿・中村屋の創業者。大正4年インド独立運動の指導者ボースをかくまい、娘婿に迎えて話題に。

ミニ事典
1954年のキーワード

犬養はその当日、責任をとるとして辞表を提出、翌日辞任した。

多目的ダム
洪水などの災害防止や発電のほか、貯水して農業用水・工業用水・生活用水に役立てるなど、使用目的が多岐にわたるダム。その第一号は昭和二一年九月、北上川総合開発計画の一環として着工された同川支流胆沢川石淵ダム。二八年六月完工、この年一月一〇日、発電試験が行われ、一三日から運転が開始された。

森脇メモ
「造船疑獄」捜査の端緒を与えた金融業者・森脇将光が、東京・赤坂の高級料亭「中川」で行われた政財界人の会合の日時、出席者名、談話の内容などを記録したメモ。二月一九日の衆院決算委員会で田中彰治委員長に提出。公開されると吉田内閣がつぶれるとも言われたが、結局その一部を暴露したにすぎなかった。

指揮権発動
検察庁法第一四条により、法務大臣が検事総長に対して持つ権限をふるうこと。造船疑獄事件で検事総長・佐藤藤佐は、最も贈賄性が強いとされた自由党幹事長・佐藤栄作逮捕の許諾を衆院に請求する許可を犬養健法相に求めたが、四月二一日、法相はそれを拒否、前例のない指揮権発動となった。佐藤栄作は当時、吉田政権の資金集めの中心的存在だった。

MSA協定
日米相互防衛援助協定。三月八日調印、国会の批准を経て五月一日公布された。広義にはこの時同時に調印された余剰農産物購入協定・経済的措置協定・投資保証協定を含むが、一般には自衛隊増強をはかる目的でアメリカから兵器などの供与を受けるための協定を意味した。野党はこの協定によって日本が軍事義務を負うのではないかと激しく反対した。

▲ＭＳＡ協定に基づいて海上自衛隊に引き渡された、T-6テキサン練習機。

杉並アピール
「第五福竜丸」の被曝後、東京・杉並区の主婦の呼びかけで設立された原水爆禁止署名運動杉並協議会が、五月九日に全国に向けて発した署名呼びかけの訴え。「この署名運動は特定の党派の運動ではなく、あらゆる立場の人々を結ぶ全国民の運動であります」とアピール。国内三二〇〇万人の署名、世界七億人の共感と決意の署名を集めることに成功した。

▲東京・杉並区の「杉の子会」の婦人たちと、集められた原水爆禁止の署名簿。

放射能雨
原水爆実験などにより大気中に放出された放射性物質を含む雨。五月一八日、京大工学部物理学教室が前々日の雨から八万カウントの放射能を検出した。野菜汚染が問題となり、厚生省は「野菜はよく洗うように」と指示。七月、東京都平和会議主催の原水爆問題講習会は、茶と野菜に体内蓄積許容量を超える放射能を持つものがかなりあると報告した。

朝日新聞社

▶集められた雨水。明確な測定基準がなく、混乱や不安に拍車をかけた。

教育二法
「義務教育諸学校における教育の政治的中立の確保に関する臨時措置法」と「教育公務員特例法の一部改正」の二法。日教組などは教員の政治活動の制限、平和教育の禁止を含むとして激しく反対、一斉休暇などの実力闘争を行ったが、五月二九日成立、六月三日公布された。

島田事件
島田市で三月一〇日に起きた幼女誘拐暴行殺害事件。五月三一日、窃盗容疑で逮捕されていた二四歳の青年が二件の暴行未遂とともに自供、後に死刑が確定するが、再審請求が繰り返され、平成元年一月一〇日、無罪が確定した。

改正警察法
従来の警察法にある国家地方警察・自治体警察を都道府県警察として一本化し、中央集権体制強化をねらった改正法。六月八日公布、七月一日施行。野党は国民主権の基調を弱める反動的改悪として反発、強行採決をはかる政府・自民党と「乱闘国会」を演じ、議場に警官隊が踏みこむ事態になった。

ぐるみ闘争
企業城下町など企業の影響力が家族や町に直接およぶ市町での労使闘争で、労働者側が会社側に対して家族ぐるみ、町ぐるみで闘うこと。日本製鋼所室蘭製作所の人員整理反対闘争が代表的。七月九日、従業員は解雇通知を拒否、全員就労闘争に入り、主婦たちが「父ちゃん」を正門前で拍手で激励するなど、闘争の表舞台に登場した。

ジュネーブ協定
フランスとベトナム民主共和国、ラオス、カンボジアが結んだ休戦協定。七月二一日、ジュネーブで調印、これで九年にわたって行われてきたインドシナ戦争が終結した。北緯一七度線を暫定軍事境界線とする、国際監視委員会を設ける、国際監視のもとでベトナム統一選挙を実施するなどが定められた。しかし、南ベトナム（バオダイ政権）は協定に反対、ベトナム二分の構図を生んだ。

仁保事件
山口県仁保村の農家で一〇月二六日、夫婦、母、子ども三人の計六人が熟睡中に頭を鍬で割られるなどして惨殺された事件。一年後、同村出身の大阪の浮浪者が逮捕され、自白したが、後に過酷な拷問によることが判明。一・二審とも死刑判決が下されたが、四四年、弁護団は複数犯人説を立証、最高裁は事実誤認を指摘して四七年、無罪判決を下した。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1954

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室（茂村巨利）＋渡邉裕…
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エービーシープレス 株カマル社 株コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ 有マックス 有マライカ
小原伸夫 鎧和田良輔 小松邦宏 佐野長成 張替政展 藤森雅弘
結城順一 吉田忠正
●写真協力
石川忠行 ロバート・キャパ 但馬一憲 田中真知郎 寺谷宏 朝日新聞社 ARCHIVE・PHOTOS アメリカン・フォト・ライブラリー 沖縄タイムス オリオン・プレス キーストン 共同通信社 CORBIS・BETTMANN 中国新聞社 中日新聞社 PPS 報知新聞社 北海道新聞社 Popperfoto 毎日新聞社 マグナム・フォト ユニフォト・プレス 読売新聞社 キングレコード 黒澤プロ 松竹 東宝 ペンタックスギャラリー 三越 川喜多記念映画文化財団 自動車工業振興会 日本近代文学館 ルーブル美術館